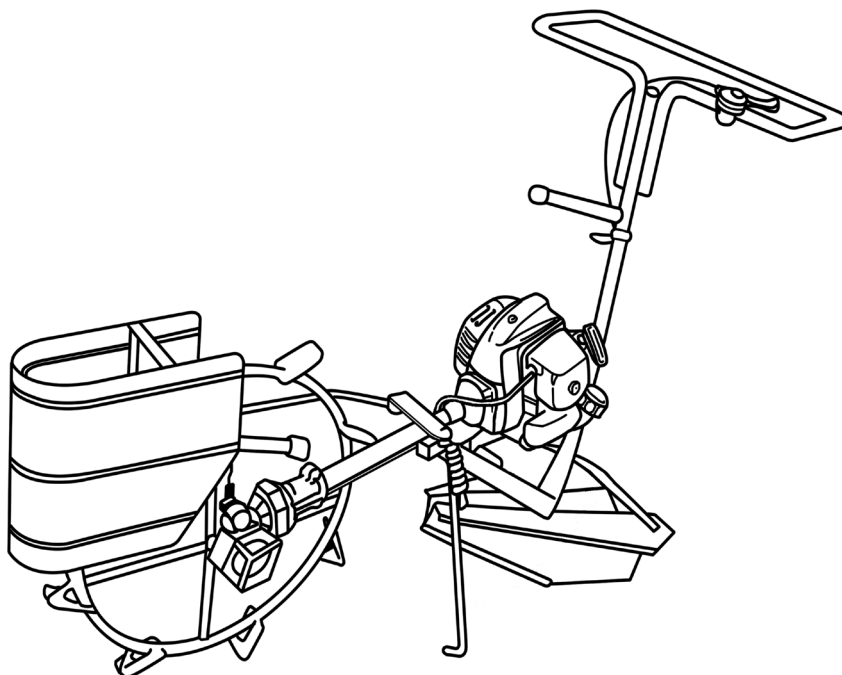


# 取扱説明書

## 水田用溝切機

### SNE266



この度は、当社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

- この取扱説明書には、事故を防ぐ重要な注意事項と本製品の取扱方法が指示されています。
- 本製品を使用する前に本取扱説明書を熟読し、十分理解された上で、ご使用ください。
- 本取扱説明書は必要なときにすぐに参照できるよう、大切に保管してください。
- 本取扱説明書が損傷や紛失により読めなくなった場合は、ご購入の販売店からお買い上げください。

#### お知らせ

- 混合比 50:1 の混合燃料でご使用ください。ガソリンのみで使用するとエンジンは故障します。
- 本製品は日本国内専用です。日本国内のみでご使用ください。

# はじめに

- 本製品は、水田における溝切作業を目的とした製品です。
- 目的以外の作業への使用や改造を行った場合は、保証の対象外となります。溝切り以外の作業や改造が原因での事故に関して、一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 製品の仕様変更などにより、ご購入の製品と本書の内容が一致しない場合がございます。
- 本取扱説明書は一般使用者および業務で本製品を使用される方、現場責任者を対象としています。
- 関係法令（消防法、廃棄物処理法、騒音規制法や騒音に関する条例）を遵守してください。
- 一般使用者の方で初めて溝切機を使う方、または本製品の使用に自信の持てない方は、使用前に熟練者から指導を受けてください。

# ⚠️ 安全に作業するために

## ■ 使用目的

本製品は健康な 16 歳以上の方が、水田における溝切りに使用することを目的とした製品です。けがや本製品の破損のおそれがあるため、目的以外の作業へ使用しないでください。

## ■ 警告表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取り扱い上の注意事項について次のように表示しています。

- ⚠️ **危険** … もし警告に従わなかった場合、死亡または重傷に至るもの。
- ⚠️ **警告** … その警告に従わなかった場合、死亡または重傷に至るおそれがあるもの。
- ⚠️ **注意** … その警告に従わなかった場合、けがに至るおそれがあるもの。および本製品や周辺の物的損害が発生するおそれがあるもの。




## ■ その他の表示について







**お知らせ** … 製品および付属品の取り扱いなどに関する重要な注意事項。

**お願い** …… 必ず実施していただきたい推奨事項。

## ■ シンボルマークについて

本製品および取扱説明書に下記のシンボルマークを掲載しています。このシンボルマークの意味をご理解の上で、ご使用ください。

-  製品の取り扱いにおいて、その行為を禁止する表示マーク。
-  製品の取り扱いにおいて、発火、破裂、高温などに関する注意事項であることを示す表示マーク。
-  製品の取り扱いにおいて、指示に基づく行為を強制する表示マーク。

	ご使用前に、取扱説明書をよく読んで理解し、使用すること。		排気ガスは人体に有害です。室内などの換気の悪い場所では運転しないこと。
	混合燃料は引火性が高いため、給油の際は必ずエンジンを停止すること。また、こぼれた燃料は必ず拭き取ること。		やけど防止のため、運転中およびエンジン停止後しばらくは、シリンダやマフラなどの高温部に触らないこと。
	混合燃料を使用すること。		車輪が回転中は、車輪に近づかないこと。

本製品は取扱方法を誤ると事故を招きます。下記の注意事項を必ず守ってください。

## 危険

下記の項目を必ず守ってください。

守らないと火災や事故に至ります。

- 混合燃料は引火性の高い燃料です。給油時や本製品を点検・整備するときは、近くで喫煙など火を使わないでください。
- 混合燃料を給油するときは、エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
- 作業中に混合燃料が漏れている場合は、火災に至るおそれがあり大変危険です。直ちにエンジンを停止して、ご購入の販売店に修理を依頼してください。
- 静電気による発火のおそれがあるため、混合燃料の保管・運搬には樹脂製の容器を使用しないでください。
- 混合燃料の運搬には金属製燃料缶を使用してください。

下記の項目を必ず守ってください。

守らないと火災や事故に至ります。

- 作業を中断するときは、エンジンを停止してください。
- エンジンは停止直後も高温のため、可燃物のない場所に置いてください。
- 排気ガスは高温のため、排気ガスが放出される方向にある枯れ枝・枯葉などの可燃物を取り除いてから作業してください。

# 警告

## 使用目的以外の使用禁止

- **本製品は水田における溝切作業を目的とした製品です。目的以外の作業には使用しないでください。**

目的以外に使用すると、思いがけない事故で他人に傷害を与えるおそれがあります。また、本製品が破損するおそれもあります。

## 改造禁止

- **本製品の改造は行わないでください。**  
安全装置が機能しなくなる、本製品の破損や飛散物により事故や重傷に至るおそれがあります。
- **本製品を他の製品などに組み込んで使用しないでください。**  
安全性を損ない事故や重傷に至るおそれがあります。

## 部品取り禁止

- **本製品からエンジンなどの組立部品や部品単体を取り外して、他の製品で使用しないでください。**  
他の製品に使用すると本来の性能が発揮できないだけでなく、使用した製品の破損、事故や重傷に至るおそれがあります。

## 使用者に関する注意事項

- **心臓ペースメーカーを使用している方は、本製品を使用しないでください。**  
使用すると心臓ペースメーカーが誤作動するおそれがあります。
- **体調の悪いとき、酒類を飲んだときは作業しないでください。**  
正しい使い方ができず事故や重傷に至るおそれがあります。
- **16歳未満の人、妊娠している人は作業しないでください。**  
正しい使い方ができず事故や重傷に至るおそれがあります。

## 使用者以外の方に関する注意事項

- **作業中の水田には、作業者以外の方は立ち入らないでください。**  
接触事故に至るおそれがあります。

## 使用環境に関する注意事項

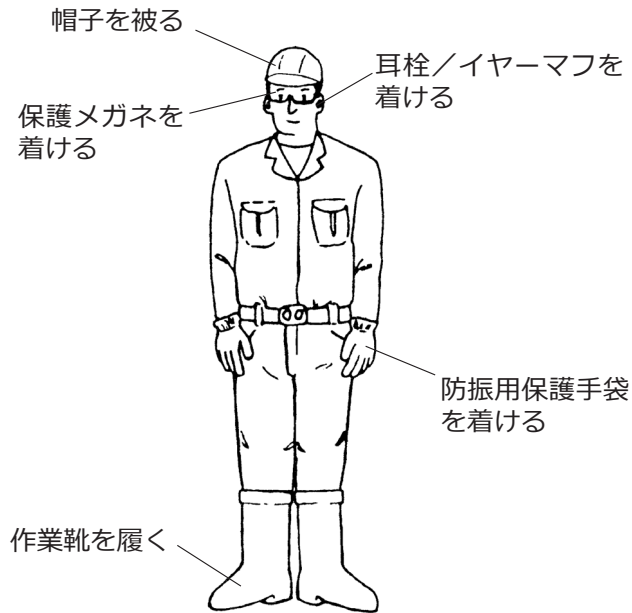
- **降雨時や落雷のおそれがあるとき、夜間など見通しが悪いときは作業しないでください。**  
感電、被雷、転倒、転落など事故や重傷に至るおそれがあります。
- **本製品を室内などの換気の悪い場所では運転しないでください。**  
一酸化炭素中毒に至るおそれがあります。



## 警告

### 作業着、保護具について

#### 正しい服装の一例



- 袖や裾のしまりの良い長袖、長ズボンの衣服を着用し、ネクタイやネックレスなどのアクセサリは外してください。また、髪の毛は肩より上でまとめてください。  
回転部に巻き込まれ、けがに至るおそれがあります。
- 保護メガネ、耳栓やイヤーマフ、帽子、保護手袋（防振用）、作業靴、などの保護具を必ず装着してください。  
本製品からの作業音により、視覚障害、聴覚障害、けがなどの重傷に至るおそれがあります。

### 本製品を他人に貸すとき

- 本製品を他人に貸す場合は取扱方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。  
正しい使い方ができず事故や重傷に至るおそれがあります。

## 注意

### 始業点検の重要性

- 作業の前に始業点検を行ってください。  
作業前に点検を行い、処置することにより故障や事故を未然に防ぐことができます。詳細は19ページの「4. 始業点検」を参照してください。

# 警告ラベルの取り扱い

## ⚠ 注意

下記の項目を守ってください。

本製品の正しい使い方を確認できず、けがに至るおそれがあります。

- 警告ラベル表面の汚れや泥をとり、いつも表示内容がはっきりと見えるようにしてください。
- 警告ラベルが損傷したときは、新しいラベルを同じ位置に貼り替えてください。  
※新しいラベルについては、ご購入の販売店に部品番号で注文してください。
- 警告ラベルが貼ってある部品を交換したときは、その部品にも必ず新しい警告ラベルを同じ場所に貼ってください。

※本製品には、下の図に示す位置に下記の警告ラベルが貼ってあります。

本製品のご使用前に **1 ページの「■ シンボルマークについて」**を参照し、その意味を理解した上で、下記ラベルの表示内容を守って作業してください。また型式名、製造番号は、アフターサービスを受けるときに必要です。ご確認の上、裏表紙にメモしてください。

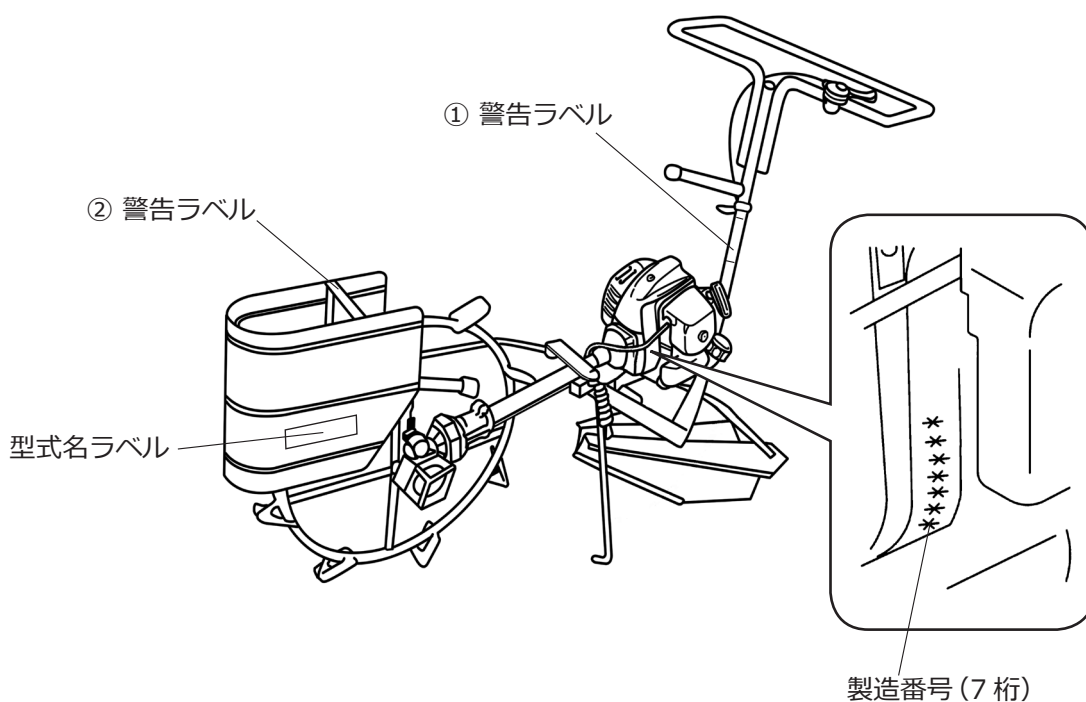
### ① 警告ラベル(部品番号 :226763)

⚠ 注意		⚠ 警告		⚠ 危険
				
取扱説明書必読	高温注意	排気ガス注意	回転中車輪接近禁止	火気厳禁

226763

### ② 警告ラベル(部品番号 :235683)

⚠ 注意	この部分を持たないこと
------	-------------



# 目次

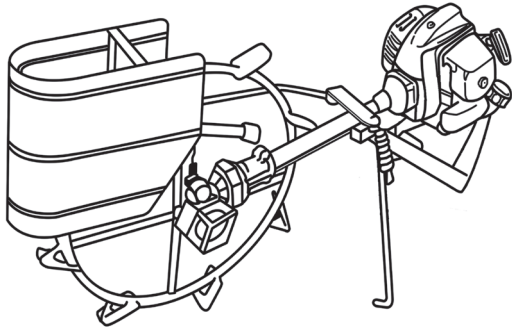
<b>▲安全に作業するために</b> .....	<b>1</b>	<b>10. 長期保管</b> .....	<b>40</b>
<b>警告ラベルの取り扱い</b> .....	<b>5</b>	<b>11. 故障と対策</b> .....	<b>41</b>
<b>1. 梱包品と各部のなまえ</b> .....	<b>7</b>	<b>12. 転売・譲渡・廃棄</b> .....	<b>42</b>
(1) 梱包品の確認 .....	7	<b>13. 主要諸元</b> .....	<b>43</b>
(2) 各部のなまえ .....	8	<b>14. オプション(純正品一覧)</b> .....	<b>44</b>
<b>2. 組み立て</b> .....	<b>9</b>		
(1) 溝切板の取り付け・調節 .....	9		
(2) ハンドルの取り付け・高さ調整 .....	10		
(3) スロットルレバーの取り付け .....	11		
(4) スロットルワイヤの組み付け .....	11		
(5) スロットルレバーの動作確認 .....	13		
(6) 組み立て完了 .....	13		
<b>3. 作業の準備</b> .....	<b>14</b>		
(1) 作業者の服装と保護具の装着 .....	14		
(2) 運搬の仕方 .....	15		
(3) 給油 .....	17		
(4) ガソリンおよび混合燃料の廃棄 .....	18		
(5) 作業計画 .....	18		
<b>4. 始業点検</b> .....	<b>19</b>		
<b>5. 水田溝切作業の効果</b> .....	<b>20</b>		
<b>6. エンジンの始動と停止</b> .....	<b>21</b>		
(1) エンジンの始動 .....	22		
(2) エンジンの冷却運転・停止 .....	23		
(3) エンジン始動フロー .....	25		
<b>7. 溝切作業</b> .....	<b>26</b>		
(1) 車輪の回転・停止 .....	26		
(2) 溝切作業 .....	27		
(3) 作業後 .....	29		
<b>8. 点検・整備</b> .....	<b>30</b>		
(1) スロットルワイヤの組み付け .....	31		
(2) キャブレタ .....	33		
(3) エアクリーナの清掃 .....	34		
(4) 点火プラグの清掃・調整 .....	35		
(5) 冷却風通路の清掃 .....	35		
(6) マフラの点検・整備 .....	35		
(7) 燃料フィルタ・タンクの清掃 .....	36		
(8) 減速機の点検 .....	37		
(9) 溝切板 .....	37		
(10) ボルト・ネジの点検 .....	37		
<b>9. 混合燃料の作成</b> .....	<b>38</b>		



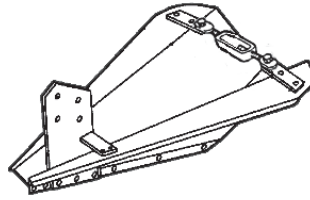
# 1. 梱包品と各部のなまえ

## (1) 梱包品の確認

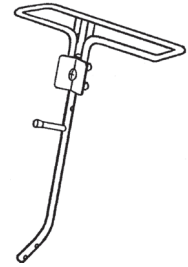
開梱時に下図を参照して部品が揃っているか、破損や変形はないかを確認してください。問題がある場合は、ご購入の販売店にご連絡ください。



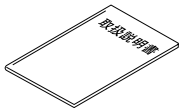
本体



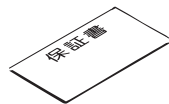
溝切板  
(224081)



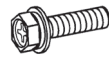
ハンドル  
(226643)



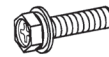
取扱説明書 / 1 冊  
(237228)



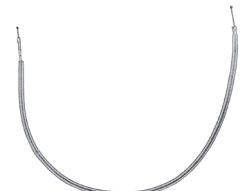
保証書 / 1 部



六角ボルト  
(M6 × 35) 2 本  
(817032)



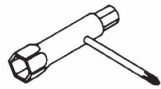
六角ボルト  
(M8 × 20) 2 本  
(126763)



スロットルワイヤ  
/ 1 本  
(215852)



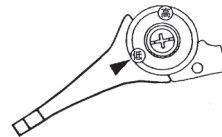
六角棒スパナ  
3mm / 1 個  
(219431)



コンビボックス  
スパナ / 1 個  
(210418)



両口スパナ  
8 × 10 / 1 個  
(022865)



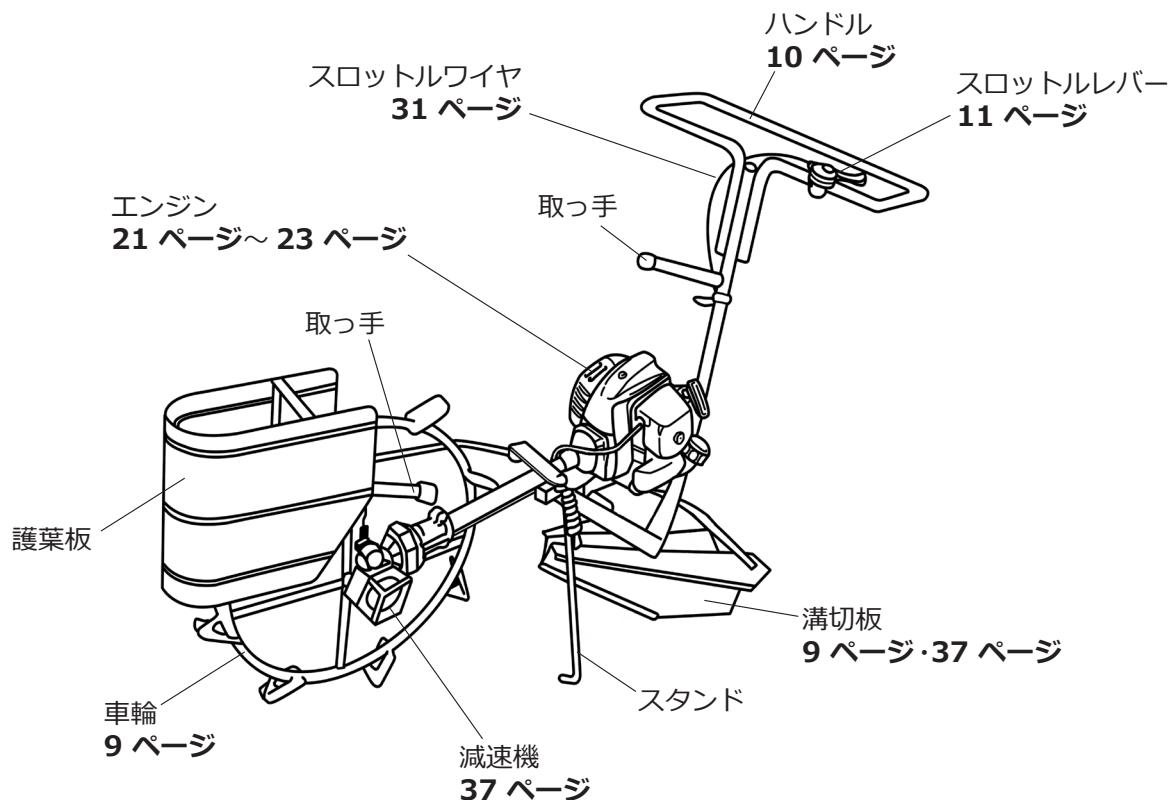
スロットルレバー  
(103032)



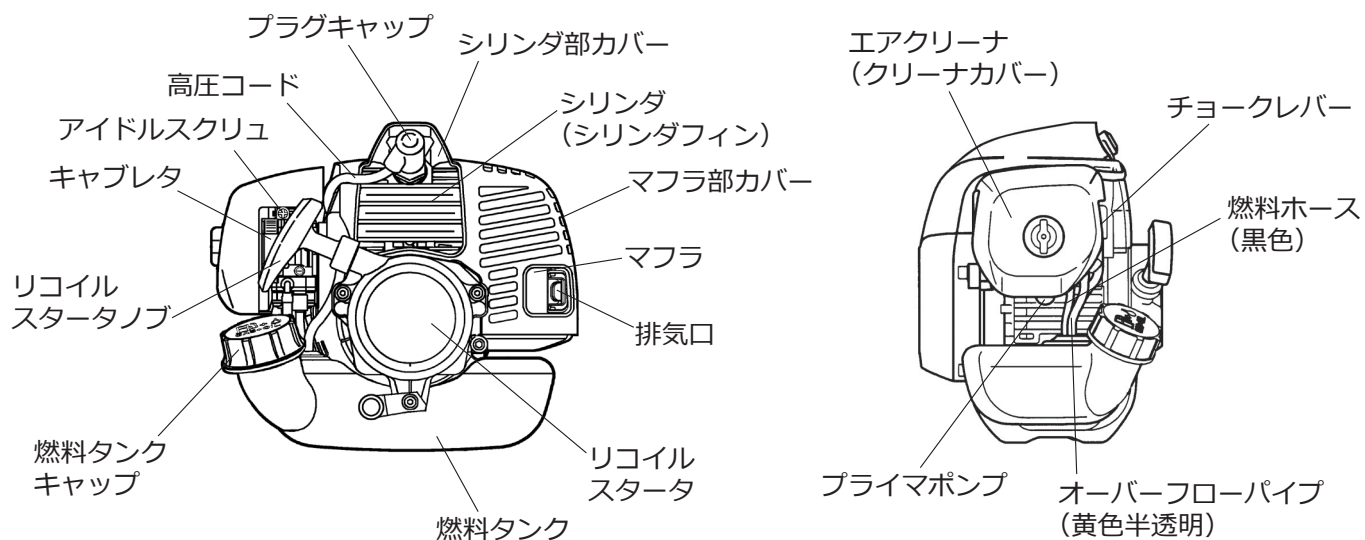
バンド / 2 本  
(220548)

## (2) 各部のなまえ

図中に当該部品が関連する本取扱説明書のページ番号を示しています。



### <エンジン>



## 2. 組み立て

### 警告



- 「2. 組み立て」に記載の内容を十分理解したうえで、正しく組み立ててください。  
組み立てを誤ると事故や重傷に至るおそれがあります。

### 注意

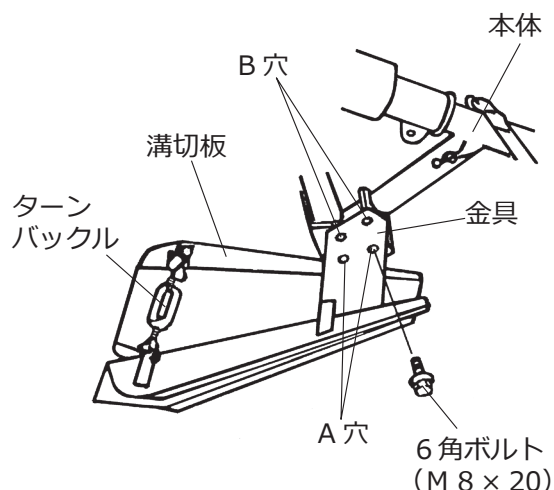


- 関係のない人が立ち入らないようにしてください。  
本製品の転倒などにより事故に至るおそれがあります。
- 周りに障害物がなく十分な明るさのある、水平で安定した場所で組み立ててください。  
周りに障害物がある場所、暗い場所や不安定な場所では、組み立てが不適切となり事故に至るおそれがあります。

### (1) 溝切板の取り付け・調節

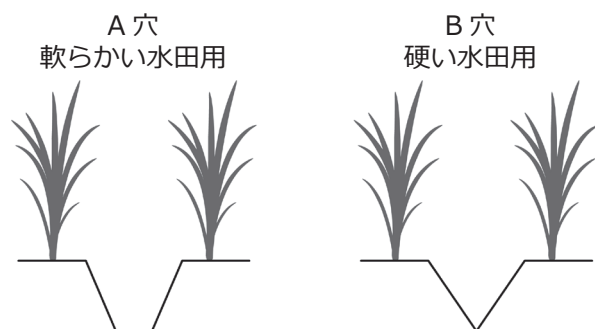
#### 1) 取り付け

- ① 付属のコンビボックススパナを用意してください。
- ② 右図で取付方向・位置 (A または B) を確認し、本体と溝切板の金具の穴を合せ、六角ボルトを差し込んでください。
- ③ コンビボックススパナで六角ボルトを確実に締め付け、溝切板を固定してください (締め付けトルク  $11 \sim 13\text{N}\cdot\text{m}$ )。



#### お知らせ

- A穴、B穴の選定により溝形状が変わります。

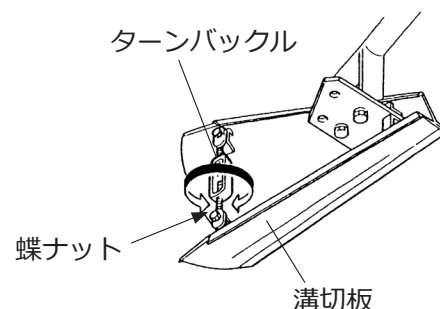


#### 2) 調節

- ① ターンバックル右側の蝶ナットをゆるめ、溝幅を調節 (調節代 50mm) してください。
- ② 調節後は蝶ナットをしっかり締めてください。

#### お知らせ

- ターンバックルを回すことにより、溝幅を希望の幅に調節することができます。(溝幅: 160 ~ 210 mm)



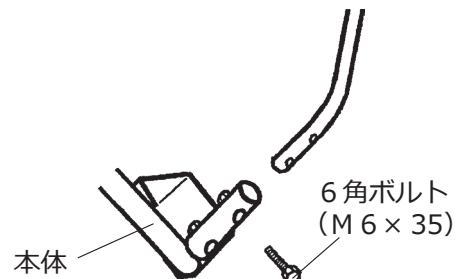
## (2) ハンドルの取り付け・高さ調整

### お知らせ

- ハンドルの高さは上下2段階で調節できます。
  - 出荷時は下側に組み付けてあります。
- 必要に応じ、**2) ハンドル高の調節**を参照し高さを調節してください。

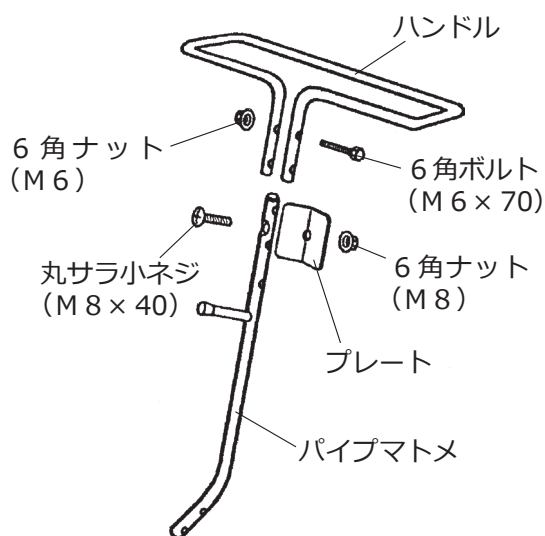
### 1) ハンドルの取り付け

- ① ハンドルの下部と本体の穴を合わせ、六角ボルト (M6 × 35) 2 個を差し込み、確実に締め付けてください (締め付けトルク 5 ~ 6N・m)。
- ② ハンドルの組み立てを終えたら、ガタがないか、締め忘れがないかを確認してください。



### 2) ハンドル高の調節

- ① 付属のコンビボックススパナと両口スパナを用意してください。
- ② 六角ナット (M8) をゆるめて、プレートを取り外してください。
- ③ 六角ナット (M6) をゆるめて、六角ボルト (M6 × 70) 2 個を取り外してください。
- ④ パイプマトメの取付穴位置を替えてハンドルの高さを調節し、六角ナット (M6) と六角ボルト (M6 × 70) 2 個で確実に締め付け、組み付けてください (締め付けトルク 5 ~ 6N・m)。
- ⑤ 丸サラ小ネジと六角ナット (M8) でプレートを取り付けてください。



### (3) スロットルレバーの取り付け

- ① 図1のようにスロットルレバーをハンドルに組み付けてください。
- ② バンド2本でパイプマトメにスロットルワイヤを仮止めしてください。

#### お願い

- スロットルワイヤは図1、図2のように、クラッチケースの上側から燃料タンクの下側を取り回してください。

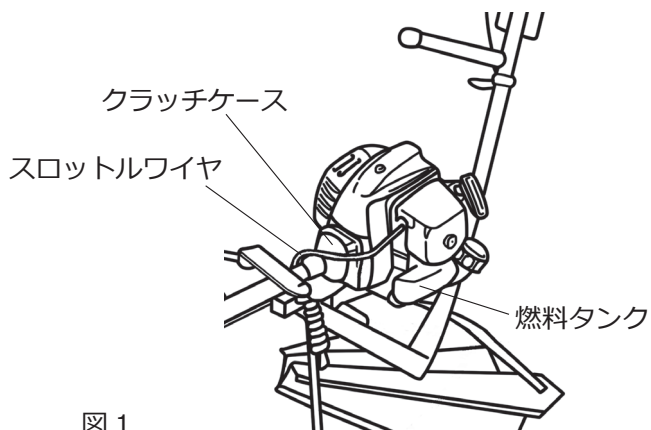


図1

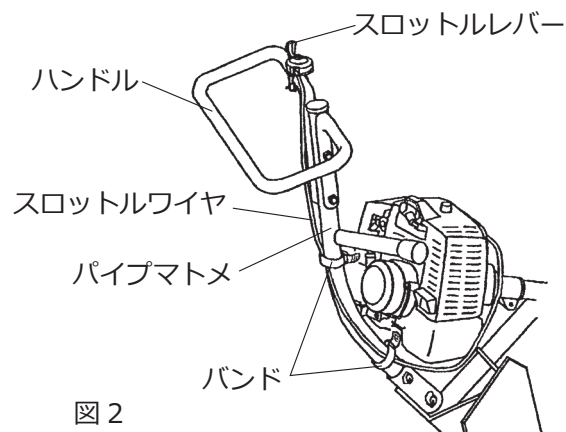
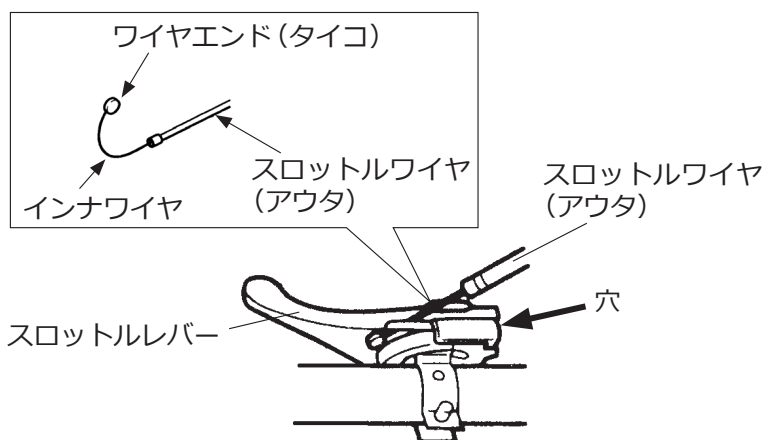


図2

### (4) スロットルワイヤの組み付け

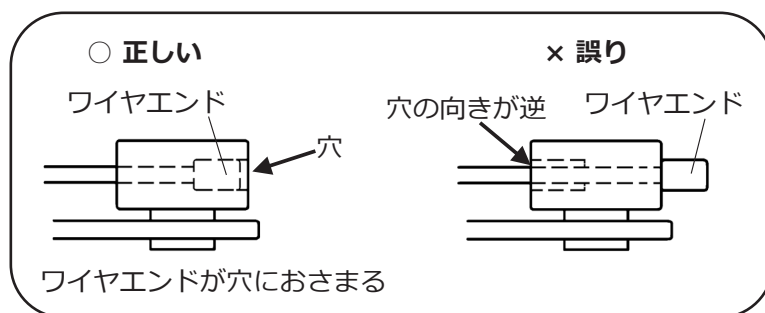
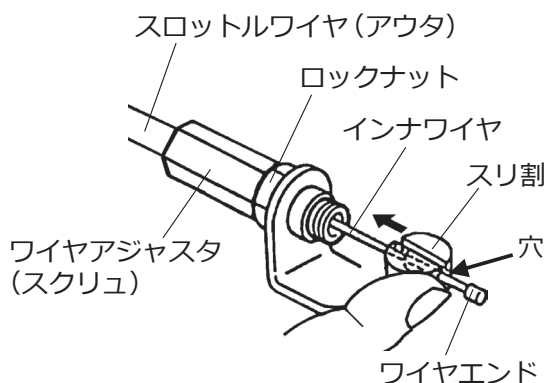
#### 1) スロットルレバー側・スロットルワイヤの組み付け

- ① スロットルレバーを低速側いっぱい(アイドリング位置)に戻した状態で、インナワイヤのワイヤエンド(タイコ)をスロットルレバー裏側の凹部に、はめ込んでください。
- ② 溝に沿ってインナワイヤを溝に入れた後、スロットルレバー下部の穴にスロットルワイヤ(アウト)を差し込んでください。

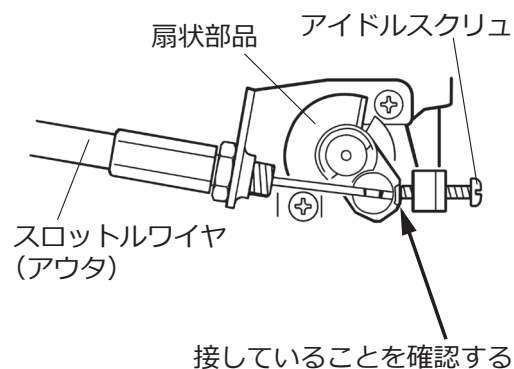


## 2) エンジン側・スロットルワイヤの組み付け

- ① クリーナカバーを外してください。詳細は **34 ページ**の「**(3) エアクリーナの清掃**」を参照してください。
- ② ワイヤアジャスタ(スクリュ)にスロットルワイヤ(アウタ)を通し、ワイヤエンドをスリ割の穴に入れて、組み付けてください。



- ③ スロットルワイヤがフレームなどの鋭角部分に接触しないようにたるみを調整し、**11 ページ**の「**(3) スロットルレバーの取り付け**」の②で仮止めしたバンド2本を締め付け、固定してください。
- ④ スロットルワイヤの組み付けが終わったら必ずスロットルレバーを操作し(**13 ページ**の「**(5) スロットルレバーの動作確認**」を参照してください)、動作の確認を行ってください。
- ⑤ 扇状部品とアイドルスクリュの間にすき間がある場合、スロットルワイヤ(アウタ)がスロットルレバーの穴の奥まで入っていないおそれがあります。再度ワイヤの組み付けを確認してください。

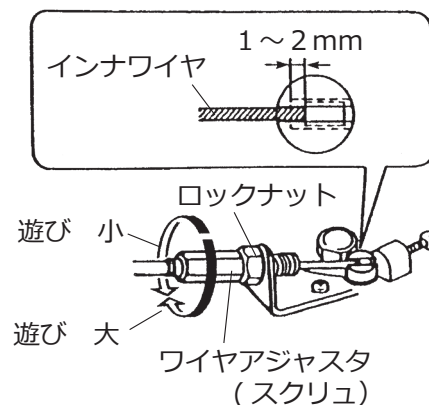


### お願い

- スロットルレバーを低速側いっぱいにした際、キャブレタの扇状部品がアイドルスクリュに接していることを確認してください。

## 3) ワイヤアジャスタ(スクリュ)の調整

- ① 付属の両口スパナを用意してください。
- ② 両口スパナを使用して、ロックナットをゆるめてください。
- ③ インナワイヤの遊びが2mm程度になるようワイヤアジャスタ(スクリュ)で調節してください。
- ④ ロックナットを両口スパナで締めて固定してください。
- ⑤ クリーナカバーを元のように取り付けてください。

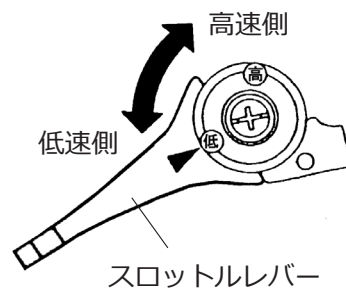


## (5) スロットルレバーの動作確認

### ■ トリガースロットルレバーの操作

エンジンを始動する前に、スロットルレバーの操作を体得してください。

- ① スロットルレバーを高速側にゆっくり動かしてください。  
※エンジンの回転速度が増加します。
- ② スロットルレバーを低速側にゆっくり動かしてください。  
※エンジンの回転速度が低下します。
- ③ 作業を終了するときは必ずスロットルレバーを低速側に戻してください。

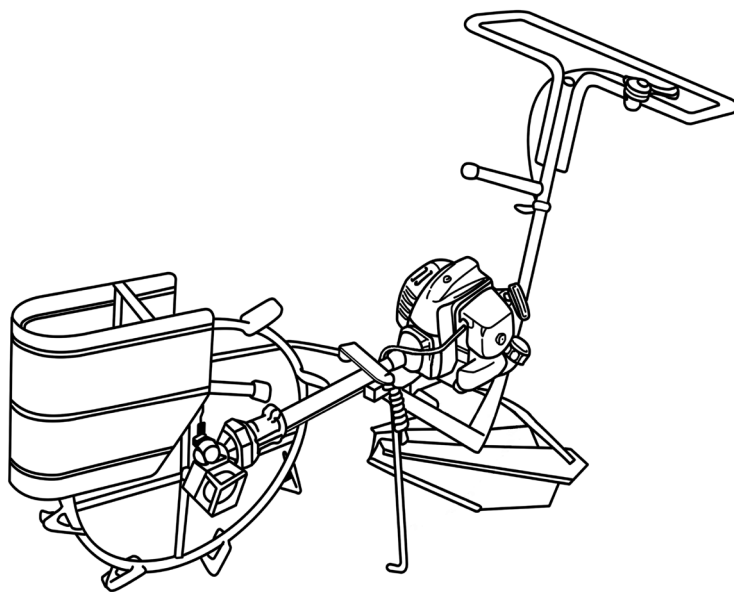


### ■ スロットルレバーの動作確認

- ① スロットルワイヤに外れがないか確認してください。
  - ② スロットルレバーを操作し、スムーズに動くか確認してください。
- ※ 異常がある場合は、ご購入の販売店または弊社サポートセンターへお問い合わせください。

## (6) 組み立て完了

これで本製品の組み立ては完了です。図のように正しく組み立てられているか、もう一度確認してください。



### 3. 作業の準備

#### お願い

- 事故やけがに備え救急箱や止血道具(タオルなど)を携行してください。応急処置が行えず、傷が悪化するおそれがあります。なお、最寄りの消防本部・消防署で実施している救命講習の講習会に参加して、応急手当の知識と技術を身に付けておくことを推奨いたします。
- 万一の事故に備えて緊急時に連絡できるようにしてください。また、家族などにも緊急連絡先(医療機関・消防署など)がわかるようにしてください。携帯電話などの緊急時の連絡手段の携帯を推奨いたします。
- ガソリンの取り扱いや溝切作業に取りかかる前に、発火・発煙・火災にそなえ消火器具、消火器、簡易消火器具(乾燥砂、砂ををかけるためのスコップなど)を用意してください。なお、緊急時にあわてないように、消火器具などの使用方法を習得しておいてください。

#### (1) 作業者の服装と保護具の装着

作業に適した服装をして必要な保護具を装着してください。詳細は4ページの「正しい服装の一例」を参照してください。



- 服装は長袖・長ズボンなどを着用し、体が露出する衣服は避けてください。シャツの裾などは必ずズボンの中に入れて、作業中に引っ掛かることのないようにしてください。また、必ず保護具を装着してください。

作業に適した服装または保護具を装着しないと、死亡または重傷に至るおそれがあります。



## (2) 運搬の仕方

本製品を作業場所まで運ぶときは、エンジンの停止を確認し、下記の注意事項を守ってください。

### ⚠ 危険



- 混合燃料の運搬・保管には金属製燃料缶を使用してください。  
樹脂製の容器は静電気により発火し、火災に至ります。

### ⚠ 警告

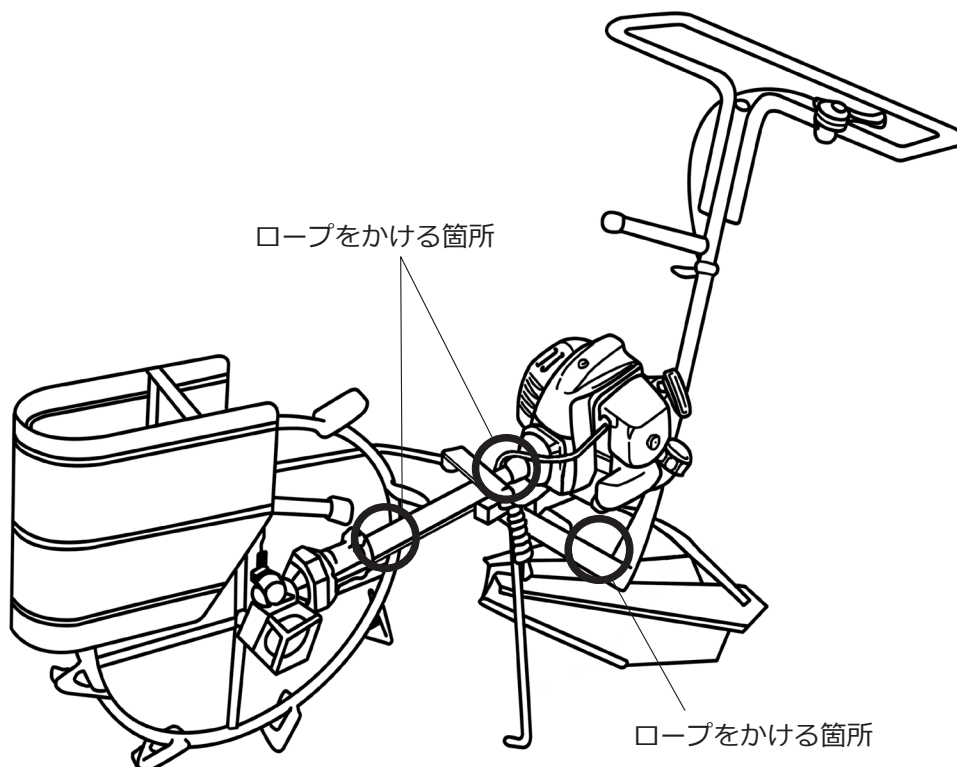


本製品の積み下ろしや運搬は、下記の項目を必ず守ってください。

本製品の落下や横転などにより、死亡または重傷に至るおそれがあります。

- 自動車はエンジンを止め、駐車ブレーキをかけ、変速レバーをPまたは1速に入れて確実に動かないようにしてください。
- 本製品の積み下ろしは平坦な場所で行ってください。
- 軽トラックなどの荷台から本製品がはみ出さない自動車を使用し、丈夫なロープで荷台に確実に固定して運搬してください。その際は図の部分にロープをかけてください。それ以外の箇所にはかけないでください。

落下や接触などによりけがに至るおそれや、他人に傷害を与えるおそれがあります。

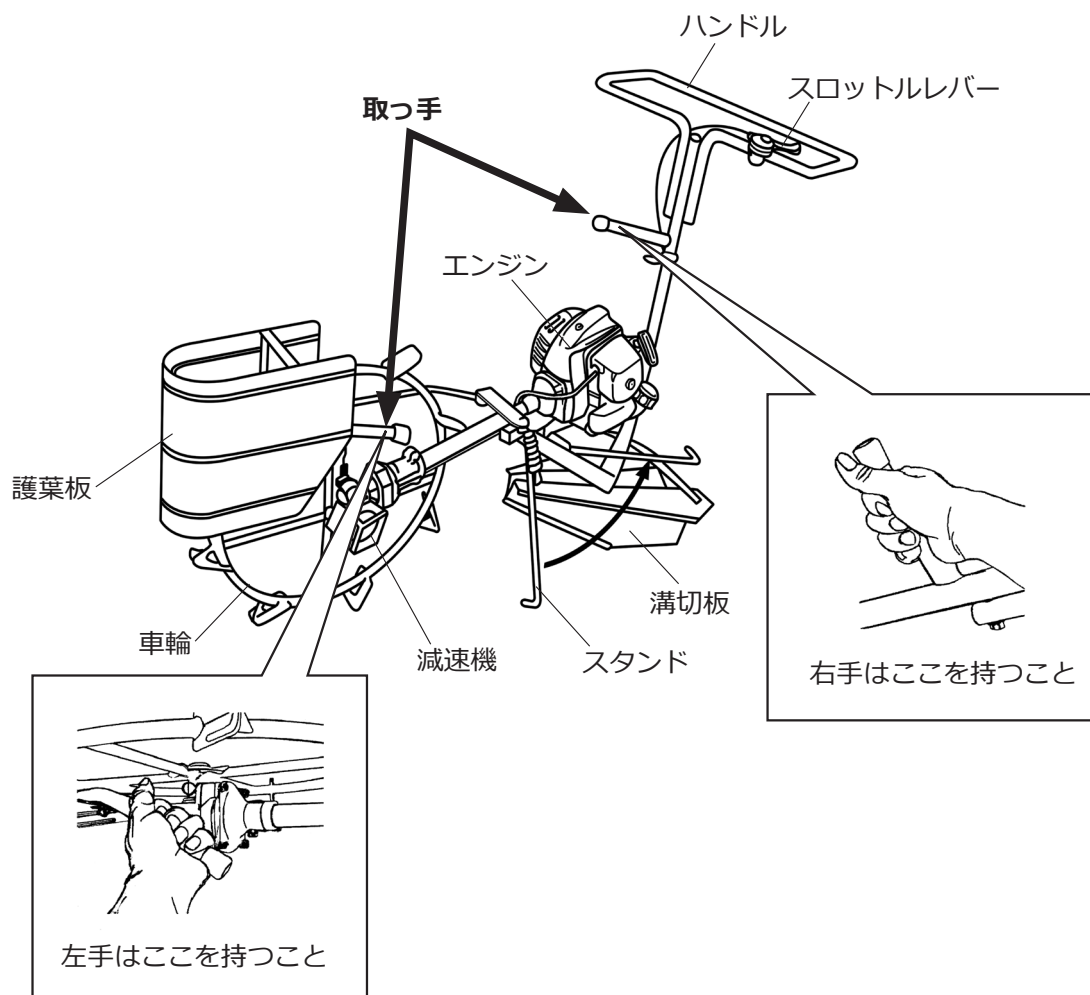


# ⚠ 注意

⊘	■ 自転車やバイクなど、2輪車での運搬は不安定で危険のため、決して行わないでください。 落下や接触などにより自身や他人がけがに至るおそれがあります。
	■ 作業場の移動はエンジンをかけたままでは、決して行わないでください。 衣服などがスロットルレバーに引っ掛かるなど予期しないことで車輪が回りだし、けがに至るおそれがあります。
⚠	■ 燃料タンクは空にしてください。 静電気などにより発火するおそれがあります。
	■ 本製品のエンジンが停止直後の場合は、高温部分には触らないでください。 高温部への接触により、やけどに至るおそれがあります。



## お願い

- 水田への移動はスタンドを後方にハネ上げ、取っ手を両手で持って運搬してください。  
危険防止のため、取っ手以外の部分は持たないでください。





### (3) 給油

給油するときは、エンジンの停止を確認し、下記の注意事項を守ってください。

 危険	
	<ul style="list-style-type: none"><li>■ <b>混合燃料は引火性の高い燃料です。必ず火気厳禁を守ってください。</b> 混合燃料に引火して火災に至ります。</li><li>■ <b>混合燃料を給油するときは必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。</b> 蒸発した燃料ガスに引火して火災に至ります。</li></ul>

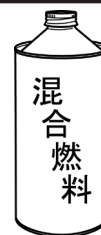
#### 1) 混合燃料の用意

市販の2サイクル用混合燃料(50:1表示)を用意してください。

 注意	
	<ul style="list-style-type: none"><li>■ <b>混合燃料を給油してください。</b> ガソリンだけで運転すると、エンジンが焼き付き故障に至るおそれがあります。</li><li>■ <b>混合燃料は容器に表示された保存期間を守ってください。保存期間が表示されていない場合は、1カ月以上経過した燃料は使用しないでください。</b> 長期保管した燃料を使用するとエンジンが故障に至るおそれがあります。</li><li>■ <b>混合燃料の保管は金属製の燃料缶を使用してください。</b> 混合燃料を樹脂製の容器で保管すると、樹脂の成分が燃料の中に溶け出し、エンジン故障に至るおそれがあります。</li></ul>

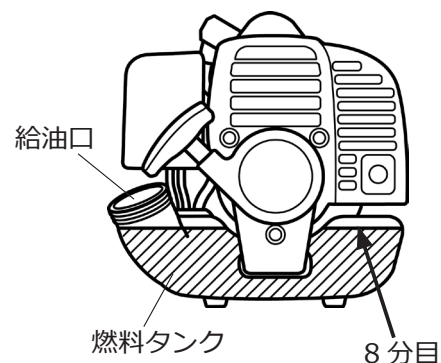
#### お知らせ

- 市販の混合燃料は、あらかじめガソリンとオイルが混合されているので、そのまま給油できます。59ページの「13. オプション(純正品一覧)」にて純正混合燃料を紹介しています。



#### 2) 混合燃料の給油

燃料タンクに混合燃料を少しずつ、ゆっくりと入れてください。混合燃料は燃料タンクいっぱいに入れなくて、8分目(給油口先端より約2cm)を目安にしてください。



## 警告

こぼれた混合燃料の放置または燃料漏れなどがないように、下記の項目を必ず守ってください。  
火災につながり、死亡または重傷に至るおそれがあります。



- 混合燃料はこぼさないように注意して入れてください。こぼした場合はきれいに拭き取ってください。
- 燃料タンクのキャップはしっかり締めて、給油口から混合燃料が漏れないことを確認してください。燃料漏れがある場合はキャップを増し締めしてください。もし燃料漏れが止まらない場合は、使用を中止し直ちにご購入の販売店へご相談ください。
- 給油時にエンジンや燃料タンク、燃料ホース、オーバーフローパイプ、ホース類の接続部からの燃料漏れや滲みがないか確認してください。もし燃料漏れや滲みがある場合は、使用を中止し直ちにご購入の販売店へご相談ください。

### (4) ガソリンおよび混合燃料の廃棄

ガソリンおよび混合燃料(混合ガソリン)は危険物であり、廃棄物処理法の特別管理廃棄物に相当します。みだりに廃棄すると法令による処罰の対象となります。廃棄する場合はお住まいの自治体の廃棄物担当部署に、ガソリン、または2サイクル用オイル混合燃料であることを明示して相談し、指示に従ってください。または、危険物を取り扱う専門の産業廃棄物処理業者に処分を依頼してください。

### (5) 作業計画

作業を行う前にあらかじめ作業場所、作業手順(作業の準備・実作業・後片付けおよび日程などを含む)、緊急時の対応、作業者の配置、合図の方法などを決めた作業計画を立ててください。また、必要に応じて事前に打合せを行うなどにより、関係者に周知するとともに、その指揮する者を選んでください。

## 注意



- 作業計画を立て遵守してください。  
長時間の振動への曝露により振動障害に至るおそれや、疲労の蓄積を招くおそれ、さらに緊急時の対応が遅れ被害が拡大するおそれがあります。
- 十分に落水し土を乾かしてから、圃場内に5～10センチほど水を入れて作業を行ってください。  
水を入れないと減速機に過負荷がかかり故障するおそれがあります。

## 4. 始業点検

その日の作業を始める前に行う点検が始業点検です。作業前に点検を行うことにより、事故や故障を未然に防止することができます。非常に大切な点検のため、下記の一覧表を参照して必ず実施してください。もし、ご自身での点検に不安のある方や交換・修理が必要な場合は、ご購入の販売店にご相談ください。

始業点検一覧表

点 検 項 目		処 置	参 照 先
ハンドル	ハンドル取付用ボルトのゆるみがないか	増し締め	10 ページの「(2) ハンドルの取り付け・高さ調整」
減速機	減速機取付用ボルトのゆるみがないか	増し締め	
	オイルのもれ、量、劣化がないか	補給・交換	37 ページの「(8) 減速機の点検」
車輪	取付ピンの脱落がないか	取り付け	
	ゆがみがないか	交換	
護葉板 / カバー	破損がないか	交換	
	カバー取付用ネジのゆるみがないか	増し締め	
溝切板	溝切板取付用ボルトのゆるみがないか	増し締め	37 ページの「(9) 溝切板」
	溝切板取付用ボルトの損傷がないか	交換	
	ゆがみがないか	交換	
スロットルレバー / ワイヤ	レバーを操作してエンジン側がスムーズに動くか	調整しなおす	11 ページの「(3) スロットルレバーの取り付け」
エンジン	冷却風通路に詰まりがないか	清掃	35 ページの「(5) 冷却風通路の清掃」
	燃料タンクキャップに破損はないか	交換	
	燃料ホース類、接合部に不良がないか	交換	
	燃料タンクのキャップパッキンに不良がないか	交換	
	マフラ排気口の詰まりがないか	修理	
	エアクリーナカバーの組立不良がないか	正しく組み立てる	34 ページの「(3) エアクリーナの清掃」
燃料	作業に必要な燃料があるか	混合燃料を給油する	17 ページの「(3) 給油」
その他各部	各部にゆるみ、組み立てに異常がないか	増し締め 正しく組み立てる	



**警 告**



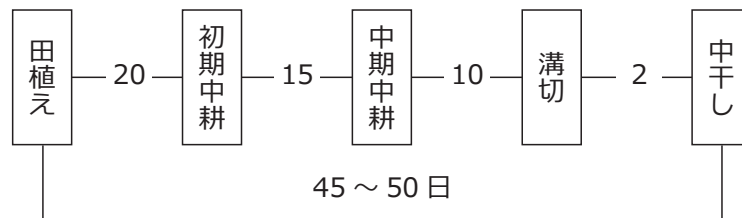
■ 始業点検一覧表に基づき点検を実施し、必要な場合は処置を施してください。  
必要な処置をしないと死亡または重傷に至るおそれがあります。

## 5. 水田溝切作業の効果

- (1) 作溝により灌排水を完全にし、稲の生育をコントロール、根を健全にして、倒伏に強い稲を育てます。
- (2) 中干効果(透水性)を高め、無効分けつ期の窒素を逃して不必要な分けつを抑え、幼穂形成期から登熟期に至る最も大切な時期の土壌条件を良好にします。
- (3) 作溝により土壌中の有毒ガスの除去、酸素の供給を行い、根の早期老化、根腐れによる稲の秋落ちを防ぐことができます。
- (4) 地表水の排水を良くして地耐力が強化されます。超湿田などでは、とくに収穫期前後の諸作業が容易になります。
- (5) コンバインなどの収穫機械を使用の場合は、落水を早める必要がなく、適期の落水で登熟を良好にし、品質向上・増収効果を高めます。
- (6) 稲収穫後も排水が良好となり土壌が乾燥するので、裏作物の作付が容易になり、裏作振興に役立ちます。




### 中耕・溝切作業体系

地方により若干差異がありますが、平均して、田植え後45～50日で中干しを行うため、この2日前頃に行うのが適切です。




## 6. エンジンの始動と停止

### 警告

	<ul style="list-style-type: none"><li>■ <b>本製品を室内などの換気の悪い場所では運転しないでください。</b> エンジンの排気ガスは有害です。換気の悪い場所で運転すると一酸化炭素中毒に至るおそれがあります。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>■ <b>始動は必ず給油した場所および燃料の入った容器から 3 m以上離れたところで行ってください。</b> 給油場所や燃料の入った容器周辺に燃料がこぼれていたり、ガソリンが気化している場合があります。離れた場所で始動しないと引火して火災に至るおそれがあります。</li><li>■ <b>エンジンの運転中および停止直後は周囲 1 m以内に可燃物がないようにしてください。</b> 排気ガスは高温です。また、マフラなど高温部は運転停止後であっても高温のため、近くに可燃物があると火災に至るおそれがあります。</li><li>■ <b>運転中のエンジンや排気ガスおよび停止直後のエンジンは高温です。接触したり排気ガスに当たらないようにしてください。</b> 高温部に接触したり、排気ガスに当たり続けたりするとやけどに至るおそれがあります。</li><li>■ <b>作業中に衣類の上からでも体が高温部に触れたり、排気ガスに当たらないようにしてください。</b> 高温部に接触したり、排気ガスに当たり続けたりするとやけどに至るおそれがあります。</li><li>■ <b>運転中のエンジンは熱く感じない部分であっても長時間の接触は避けてください。</b> 接触し続けると、低温やけどに至るおそれがあります。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>■ <b>リコイルスタータノブを引くときは、進行方向に人や動物がいないことを十分に確認してください。</b> エンジンが始動したときに車輪が回転する場合があります、本製品が動いたり転倒したりして作業員や周囲の人の傷害事故に至るおそれがあります。</li><li>■ <b>エンジン始動時アイドル状態で車輪が回転する場合は、直ちにエンジンを停止しご購入の販売店に修理を依頼してください。</b> アイドル状態で車輪が回転すると、回転する車輪に接触し重傷に至るおそれがあります。</li></ul>

### 注意

	<ul style="list-style-type: none"><li>■ <b>無線装置の近くでは、運転しないでください。</b> エンジンから発生する電波雑音は無線装置に影響を与えるおそれがあります。影響がある場合は使用を中止してください。</li></ul>
-------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

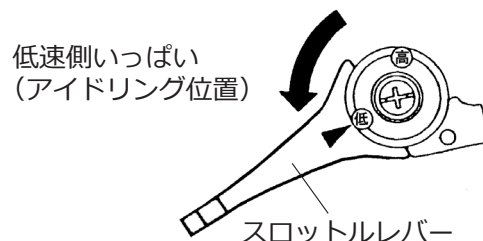
## (1) エンジンの始動

### 1) エンジン始動の準備

- ① 給油場所および燃料の入った容器から 3 m 以上離れた、平坦で周りに障害物のない地面に本製品を置いてください。
- ② 各部のネジを点検してください。ゆるみのある個所は増し締めをしてください。
- ③ 周囲に人や動物がいないかなどの安全を確認してください。

### 2-1) エンジンが冷えている場合

- ① スロットルレバーは低速側いっぱい(アイドリング位置)にしてください。
- ② プライマポンプを矢印側から押す・離すの操作を、10 回程度繰り返し行ってください。オーバーフローパイプから燃料タンクに混合燃料が戻ります。
- ③ チョークレバーを『閉』側にしてください。
- ④ リコイルスタータノブを数回勢いよく引いてください。



#### お願い

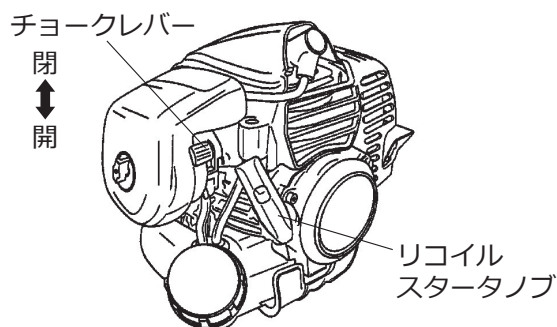
- 勢いよくリコイルスタータノブを引かないとエンジンは始動しません。

- ⑤ エンジンが始動したら、ゆっくりチョークレバーを『開』の位置に戻してください。

※ エンジンが始動しない場合は下記の操作をしてください。

- 爆発音がしエンジンがすぐに止まったときは、チョークレバーを『開』側にして、さらにリコイルスタータノブを引いて始動してください。
- リコイルスタータノブを 3 回程度引いても爆発音がしない、または聞き逃した場合は、チョークレバーを『開』側にしてエンジンが始動するまで数回リコイルスタータノブを引いてください。

- ⑥ アイドリング状態で 1 分間程度暖機運転してください。暖機運転はスロットルレバーを操作せず、アイドリング状態のままにしてください。



## ⚠ 注意



- 始動ロープは最後まで引ききらないでください。引ききってしまうと破損に至るおそれがあります。
- チョークレバーが『閉』側のままリコイルスタータノブを何回も引き続けしないでください。混合燃料がエンジンシリンダの中へ入り過ぎて、エンジンが始動できなくなるおそれがあります。



- リコイルスタータノブを引いた後は、リコイルスタータノブから手を離さずに戻してください。リコイルスタータノブを引いてすぐに手を離すと、エンジンが故障に至るおそれがあります。



# 警告

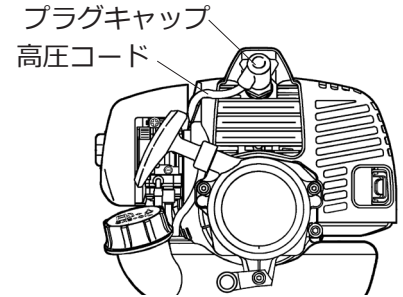


- 暖機運転中は本製品から離れずに、人が近づかないようにしてください。本製品が動いたり、車輪に触れたりして傷害事故に至るおそれがあります。

# 注意



- 運転中はプラグキャップや高圧コードに触らないでください。運転中に触ると、感電に至るおそれがあります。



## 2-2) エンジンが暖まっている場合

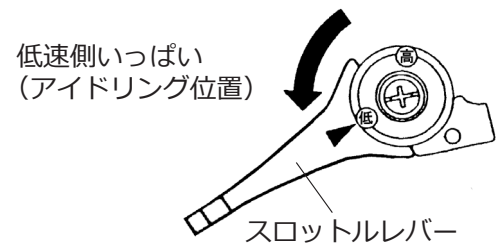
- ① プライマポンプを矢印側から押す・離すの操作を、10回程度繰り返し行ってください。オーバーフローパイプから燃料タンクに混合燃料を戻します。
- ② チョークレバーを確実に『開』の位置にしてください。
- ③ リコイルスタータノブを数回勢いよく引いてください。

### お知らせ

- 勢いよくリコイルスタータノブを引かないとエンジンは始動しません。

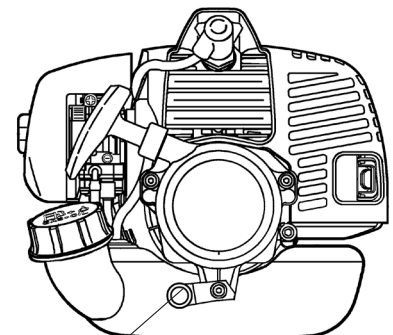
## (2) エンジンの冷却運転・停止

- ① スロットルレバーを低速側いっぱいに戻すと、エンジン回転速度はアイドリング状態になります。アイドリング状態のまま、1分間程度冷却運転をしてください。冷却運転しないでエンジンを停止するとアフターファイヤーが起き、爆発音を発生することがあります。
- ② ストップスイッチを、エンジンが完全に停止するまで押してください。



### ※緊急停止方法

緊急時の場合はストップスイッチを、エンジンが完全に止まるまで押してください。ストップスイッチやリード線などの故障で、スイッチを操作してもエンジンが停止しないときは、緊急手段としてチョークレバーを『閉』側の位置にしてください。エンジンは失速停止します。その後直ちにご購入の販売店にストップスイッチなどの修理を依頼してください。



## 警告

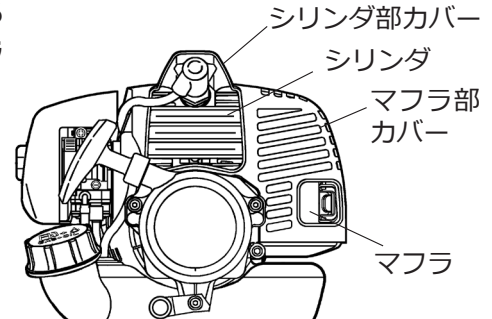


- 冷却運転中は本製品から離れずに、人が近づかないようにしてください。  
本製品が動いたり、転倒したりして傷害事故に至るおそれがあります。

## 警告



- 運転中、アイドリング中およびエンジン停止後しばらくは、シリンダやシリンダ部カバー、マフラ、マフラ部カバーなどの高温部に触らないでください。  
高温部に触るとやけどに至るおそれがあります。



## 注意



- 緊急時以外は、スロットルレバーを低速側いっぱい(アイドリング位置)に戻し、エンジンをアイドリング状態で冷却運転をしてからエンジンを停止してください。  
高速回転で運転中に急に停止することは、エンジンに無理がかかり故障に至るおそれがあります。
- 実作業に入る前に、「(2)エンジンの冷却運転・停止」の項に従って、ストップスイッチを操作してエンジンが停止することを確認し、始動・停止の練習をしてください。  
エンジンの停止方法を体得しないとけがに至るおそれがあります。

## 注意

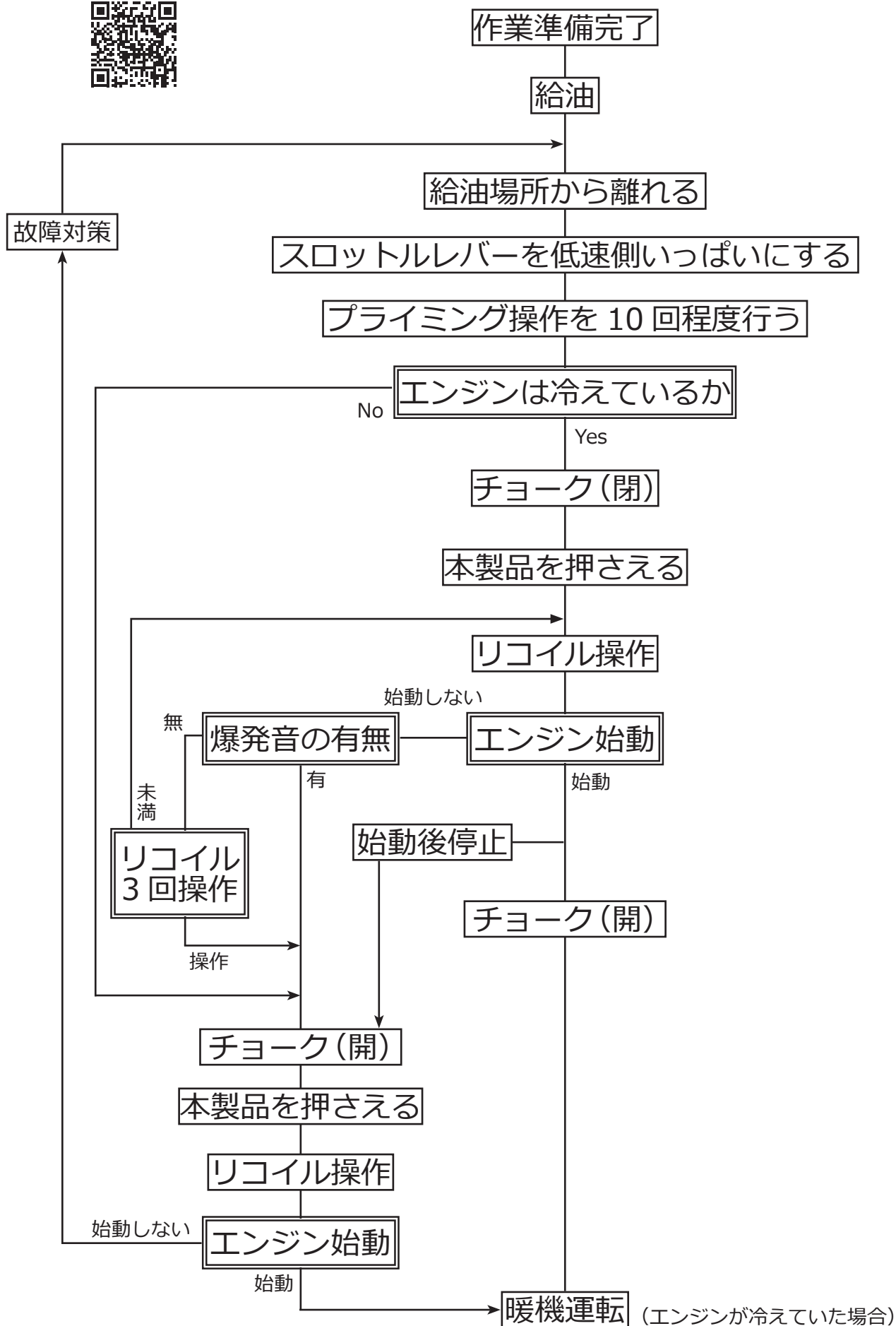


- ストップスイッチの修理が完了するまでは、本製品を運転しないでください。  
修理していないとエンジンを止めることができず、けがに至るおそれがあります。

### (3) エンジン始動フロー

エンジンの始動についてフロー図で示していますので、参照してください。

また、下記の QR コードにてエンジンの始動の仕方を、ご紹介していますので併せてご覧ください。



## 7. 溝切作業

### 警告



- エンジン始動時アイドル状態で車輪が回転する場合は、直ちにエンジンを停止しご購入の販売店に修理を依頼してください。  
アイドル状態で車輪が回転すると、回転する車輪に接触し重傷に至るおそれがあります。

### 注意



- 手足や体を冷やさない服装で作業してください。  
手足や体が冷えると振動障害に至るおそれがあります。
- 高温や炎天下での長時間の連続作業を避け、定期的に休憩を取り、適度な水分補給を行ってください。  
熱中症など、体に影響を及ぼすおそれがあります。
- 十分に落水し土を乾かしてから、圃場内に5～10センチほど水を入れて作業を行ってください。  
水を入れないと減速機に過負荷がかかり故障するおそれがあります。

#### お願い

- 安全作業にとって効果的であるため、作業開始前に準備体操を行ってください。

### (1) 車輪の回転・停止

### 注意



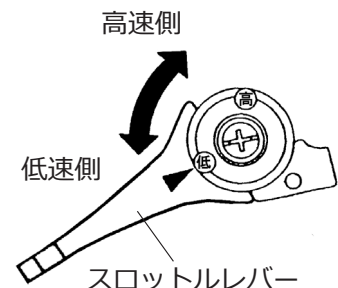
- エンジンの回転を上げるときは、ゆっくりとスロットルレバーを操作してください。  
急激に回転を上げると、転倒し事故に至るおそれがあります。
- 本製品に異常(異常音、異常振動、不具合)を感じたときは、直ちに作業を中止してご購入の販売店に修理を依頼してください。  
異常のあるまま使用すると、事故に至るおそれがあります。

#### 1) 車輪の回転

エンジンを始動し、スロットルレバーを高速側に操作してエンジンの回転を上げていくと、自動的に車輪が回転を始めます。回転を上げる場合は急激に上げず、徐々に回転を上げてください。

#### 2) 車輪の停止





スロットルレバーを低速側いっぱいに戻すとクラッチが切れ、エンジンはアイドル回転になり、自動的に車輪が止まります。






#### お願い

- 畝間移動時はスロットルレバーを低速側いっぱいに戻し、エンジンをアイドル状態にしてください。作業をしない時はエンジンを停止してください。
- スロットルレバーの開度は水田の状態に合わせて調節してください。

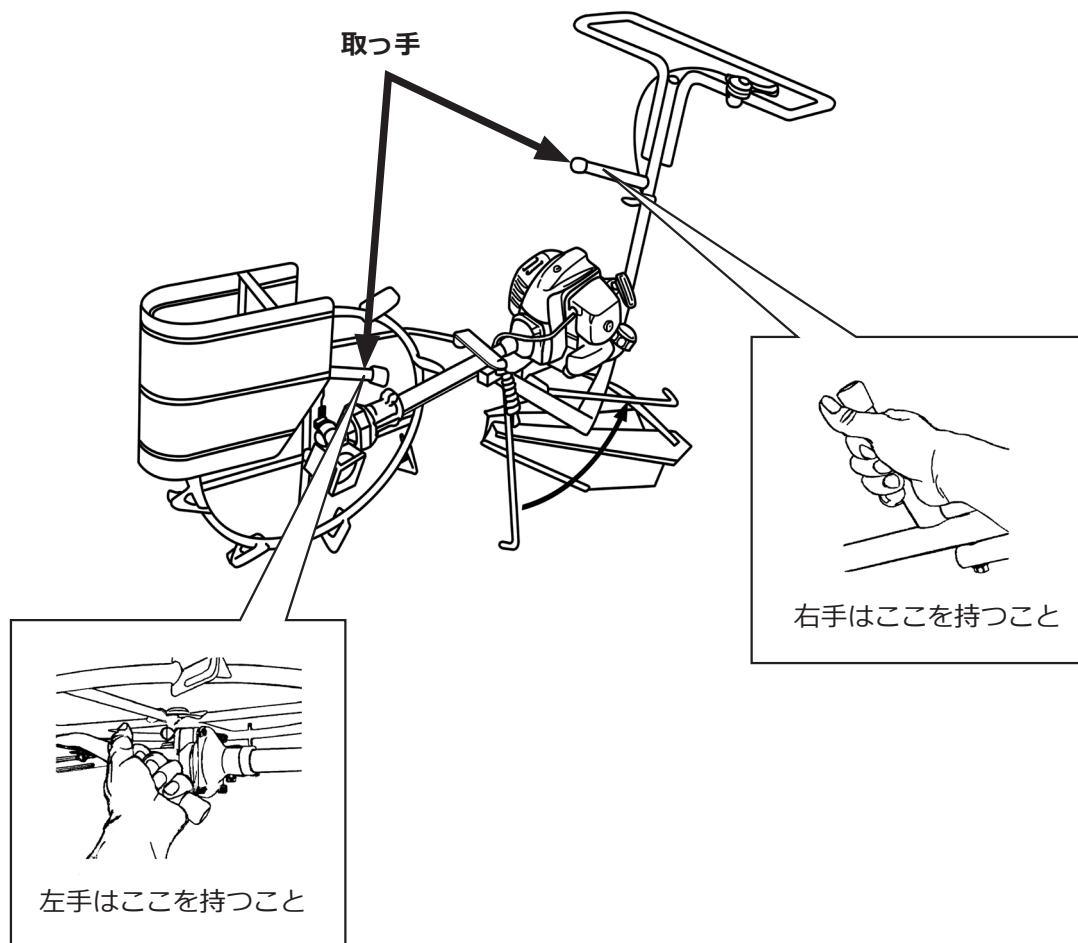
## (2) 溝切作業

 <b>警 告</b>	
	<ul style="list-style-type: none"><li>■ <b>溝切作業を中断するときは、必ずエンジンを停止してください。</b> 停止していないと、回転する車輪でけがをしたり、やけどや火災に至るおそれがあります。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>■ <b>エンジンを外して運転しないでください。</b> クラッチが飛び出し、事故に至るおそれがあります。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>■ <b>車輪部に付着した泥、ワラや雑草がからんだ場合は、エンジンを停止してから除去してください。</b> 停止していないと、ワラなどを除去した瞬間に車輪が回りだし、重傷に至るおそれがあります。</li><li>■ <b>近くに子供がいる場合は、いたずらなどに注意してください。</b> エンジンが始動したまま本製品を置いて目を離すと、おもちゃと間違え大人の真似をして子供が重傷に至るおそれがあります。</li><li>■ <b>安全のため、必ず必要な保護具を装着して作業を行ってください。</b> 視覚障害、聴覚障害、けがなどの重傷に至るおそれがあります。</li><li>■ <b>作業を中断するときは必ずエンジンを停止してください。</b> 溝切作業を中断した際、アイドル中エンジン回転速度が上がると車輪が回り出すことがあります。意図しない車輪への接触などにより事故に至るおそれがあります。</li></ul>

 <b>注 意</b>	
	<ul style="list-style-type: none"><li>■ <b>極端な乾田、湿田では使用しないでください。</b> 作業不能や製品の故障に至るおそれがあります。</li><li>■ <b>マフラの排気口をふさがないでください。</b> 排気ガスによりエンジンの損傷に至るおそれがあります。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>■ <b>作業中、スロットルワイヤを木の枝などに引っ掛けないよう注意してください。</b> スロットルワイヤが引っ張られると、予期しないエンジン回転速度の上昇が起き、けがに至るおそれがあります。</li></ul>

### お願い

- 畝間を移動するときなど、本製品を持ち上げる際は下図のように取っ手を両手で持ってください。危険防止のため、取っ手以外の部分を持たないでください。



### お知らせ

- スタート時、湿田で車輪が食い込んだときは、ハンドルを若干上げ下げするか、手元で力を入れずに2～3回ゆすぶり回転を上げたり、下げたりすれば簡単に進行します。

### (3) 作業後

#### 1) 作業終了時

- ① スロットルレバーを低速側いっぱいに戻してください。
- ② 1 分間程度冷却運転をしてください。
- ③ エンジンを停止してください。
- ④ エンジンが完全に冷えた後、本製品を掃除して護葉板などのカバー類の損傷の有無を点検してください。
- ⑤ 混合燃料を燃料タンクから燃料缶に排出してください。
- ⑥ プライマポンプを数回押して、キャブレタ内の混合燃料を燃料タンクに戻してください。
- ⑦ もう一度、燃料タンクの混合燃料を燃料缶に排出してください。
- ⑧ エンジンが始動するか確認してください。

#### ■ エンジンが始動しない場合

そのまま問題ありません。2) 保管へ進んでください。

#### ■ エンジンが始動する場合

エンジンの中に残っている混合燃料をなくすために、エンジンを始動した後、自然に停止するまで運転してください。

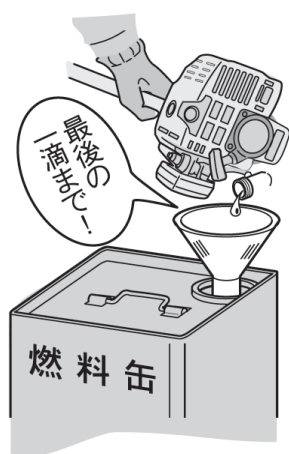
## 警告



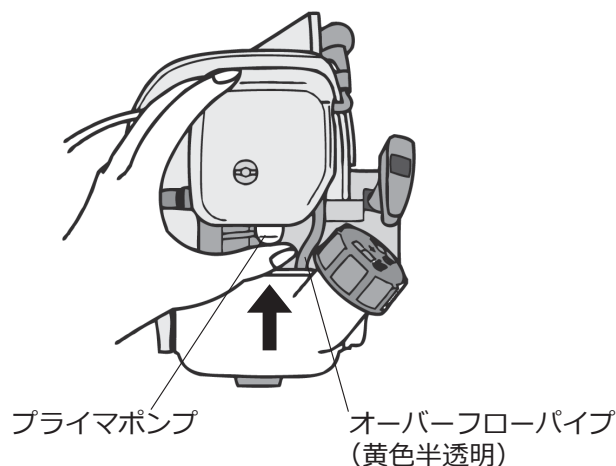
- 混合燃料を燃料缶に排出するときは、こぼさないように注意してください。こぼした場合はきれいに拭き取ってください。

こぼれた混合燃料に引火して火災に至るおそれがあります。

燃料タンクから



キャブレタから



#### 2) 保管

エンジンが完全に冷えてから保管してください。

#### お願い

- 本製品を長期間 (1 か月以上) 保管する場合は、40 ページの「10. 長期保管」を参照してください。

## 8. 点検・整備

### お願い

- 本製品を安全にご使用いただき、また長持ちさせるために定期的に点検を行ってください。
- 安全にご使用いただくために年に1回、ご購入の販売店にて定期点検を行ってください。

## 警告



- 取扱説明書に記載されていない整備・調整は、ご購入の販売店に依頼してください。正しい整備ができず、事故に至るおそれがあります。
- 点検で不具合がある、不調の場合は整備を行い正常な状態になってから使用してください。必要な処置をしないと、本製品の破損や部品脱落などにより死亡事故や重傷に至るおそれがあります。
- 部品を交換する場合は、必ずメーカー指定の純正部品をご使用ください。間に合わせのものや粗悪なものを使用すると、早期破損やゆるみ、異常振動などにより、事故やけが、本製品の故障に至るおそれがあります。

## 注意



- 作業に関係がない人を近づけないでください。車輪に接触するなどにより、けがに至るおそれがあります。



- 本製品の点検・整備を行うときは、周囲を整理してから行ってください。点検整備が適切に行えず、本製品の不具合の発生に至るおそれがあります。

### ■ 定期点検

下記の使用時間を目安に定期的に点検を実施してください。

### お願い

- ご自身での点検に不安のある方は、ご購入の販売店にご相談ください。

	点検項目	使用時間	参照タイトル
エンジン	エアークリーナエレメントの清掃	25 時間ごと	34 ページの「(3) エアークリーナの清掃」
	点火プラグの点検清掃、調整	25 時間ごと	35 ページの「(4) 点火プラグの清掃・調整」
	燃料フィルタの清掃	25 時間ごと	36 ページの「(7) 燃料フィルタ・タンクの清掃」
	燃料タンク内の清掃	25 時間ごと	36 ページの「(7) 燃料フィルタ・タンクの清掃」
減速機	オイル交換	始動後 10 ～ 12 時間 連続使用 50 ～ 55 時間ごと	37 ページの「(8) 減速機の点検」



## ■ 整備

下記の作業手順に従って点検を実施してください。

### お願い

- この取扱説明書に記載された整備であっても専門知識や技能が必要となる場合があります。不安のある方はご購入の販売店にご相談ください。

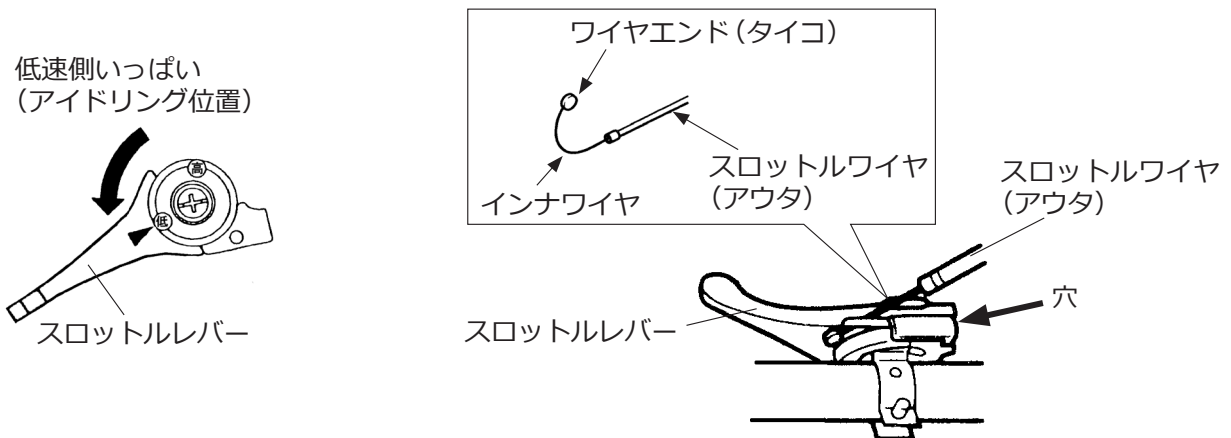
## (1) スロットルワイヤの組み付け

スロットルワイヤに組み付け上で挟み込みやねじれ・張りすぎがないか点検し、問題があれば修理してください。

### 1) スロットルレバー側・スロットルワイヤの組み付け

スロットルレバー側のスロットルワイヤが外れている場合、下記の手順に従いスロットルワイヤを組み付けてください。

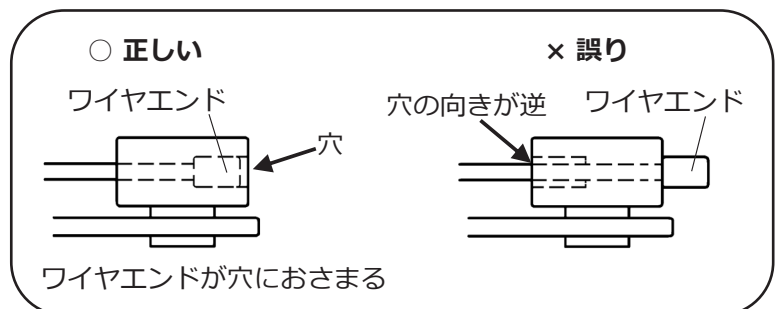
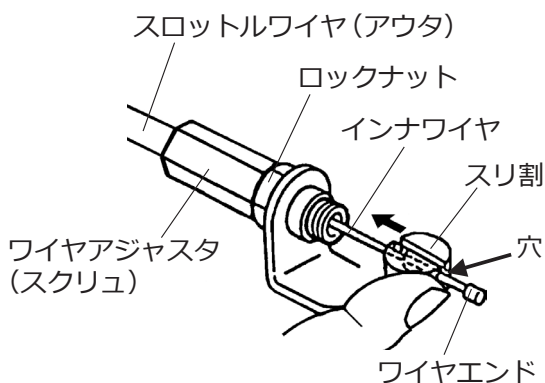
- ① スロットルレバーを低速側いっぱい(アイドルリング位置)に戻した状態で、インナワイヤのワイヤエンド(タイコ)をスロットルレバー裏側の凹部に、はめ込んでください。
- ② 溝に沿ってインナワイヤを溝に入れた後、スロットルレバー下部の穴にスロットルワイヤ(アウト)を差し込んでください。



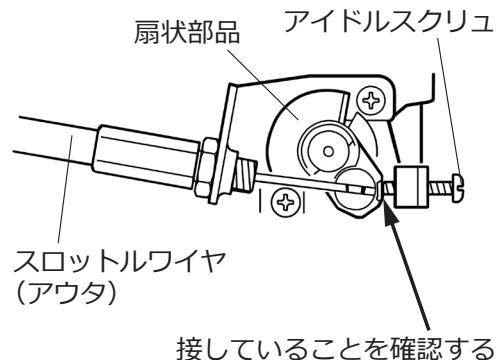
### 2) エンジン側・スロットルワイヤの組み付け

エンジン側のスロットルワイヤが外れている場合、下記の手順に従いスロットルワイヤを組み付けてください。

- ① クリーナカバーを外してください。詳細は 34 ページの「(3) エアクリーナの清掃」を参照してください。
- ② ワイヤアジャスタ(スクリュ)にスロットルワイヤ(アウト)を通し、ワイヤエンドをスリ割の穴に入れて、組み付けてください。



- ③ スロットルワイヤの組み付けが終わったら必ずスロットルレバーを操作し(13 ページの「(5)スロットルレバーの動作確認」を参照してください)、動作の確認を行ってください。
- ④ 扇状部品とアイドルスクリュの間ですき間がある場合、スロットルワイヤ(アウタ)がスロットルレバーの穴の奥まで入っていないおそれがあります。再度ワイヤの組み付けを確認してください。
- ⑤ スロットルレバーの動作確認が終わったらクリーナカバーを取り付けてください。



#### お願い

- スロットルレバーから手を離した際、キャブレタの扇状部品がアイドルスクリュに接していることを確認してください。

## ⚠ 注意



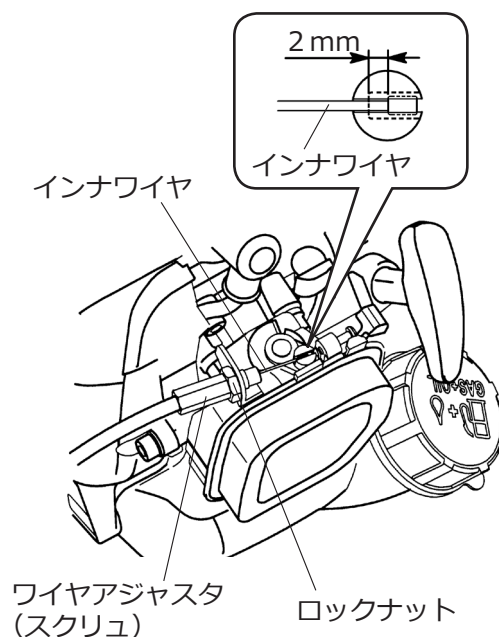
- 組み付けを見直ししても扇状部品とアイドルスクリュが接していない場合は、エンジンを始動しないで 33 ページの「1)ワイヤアジャスタ(スクリュ)の調整」を行ってください。エンジンが始動すると同時に車輪が回り、接触してけがに至るおそれがあります。

## (2) キャブレタ調整(アイドリング調整)

エンジンがアイドリング状態で車輪が回転するときは、回転しないように調整をしてください。

### 1) ワイヤアジャスタ(スクリュ)の調整

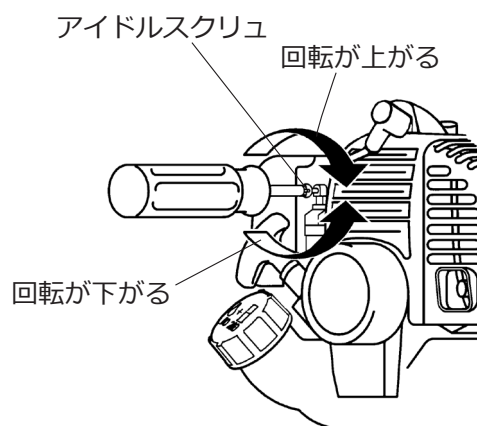
- ① 付属の両口スパナを用意してください。
- ② クリーナカバーを外してください。詳細は **34 ページ**の「(3) エアクリーナの清掃」を参照してください。
- ③ スロットルレバーを低速側いっぱいに戻してください。
- ④ インナワイヤの遊びが 2mm 程度か確認してください。
- ⑤ 遊びが適正でない場合は、両口スパナでロックナットをゆるめてください。
- ⑥ ワイヤアジャスタ(スクリュ)で遊びが 2mm になるように調整してください。
- ⑦ 両口スパナをロックナットで締めて固定してください。
- ⑧ クリーナカバーを元のように取り付けてください。



### 2) アイドルスクリュの調整

エンジンのアイドリング回転速度は出荷時に調整済みですが、調整が必要な場合は、下記の手順に従ってください。

- ① 付属のコンビボックススパナかプラスドライバーを用意してください。
- ② エンジンを始動し十分に暖機してください。
- ③ アイドリング時に車輪の回転が止まらない場合は、アイドルスクリュを  
左(反時計方向)に回してください → 回転が下がる
- ④ アイドリング時にエンジンが停止してしまう場合は、アイドルスクリュを  
右(時計方向)に回してください → 回転が上がる



#### お願い

- 「(2) キャブレタ調整(アイドリング調整)」をしても車輪の回転が止まらない場合は、エンジンを停止しご購入の販売店にご相談ください。

### (3) エアクリーナの清掃

#### 1) 清掃の間隔

エアクリーナのエレメントが汚れていると、エンジンの出力低下や始動不良が起こります。25 時間使用すごとに 1 回は必ず清掃してください。また、チリやホコリの多いところで使用した場合は、1 日 1 回清掃してください。

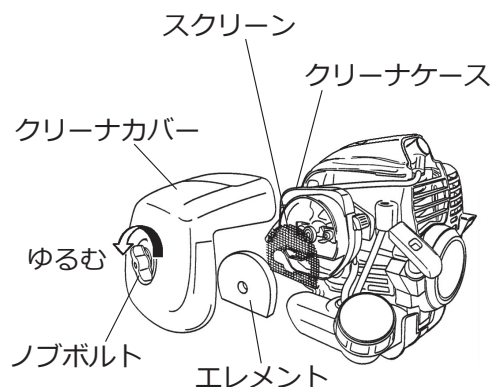
## ⚠ 危険



- 混合燃料は引火性の高い燃料です。取り扱いは必ず火気厳禁を守ってください。守らないと火災に至ります。

#### 2) 清掃

- ① ノブボルトをゆるめ、クリーナカバーをクリーナケースから外してください。
- ② エレメントを取り出し混合燃料で洗浄してください。スクリーンは温かい石鹼水で洗浄してください。
- ③ スクリーンはよく乾かし、またエレメントはしぼってからの位置に取り付けてください。
- ④ クリーナカバーをクリーナケースに取り付けてください。



#### お願い

- 洗浄して残った混合燃料は、18 ページの「(4) ガソリンおよび混合燃料の廃棄」に従って処分してください。

## ⚠ 注意



- エアクリーナやエレメントのない状態で溝切作業をしないでください。エンジンの故障に至るおそれがあります。

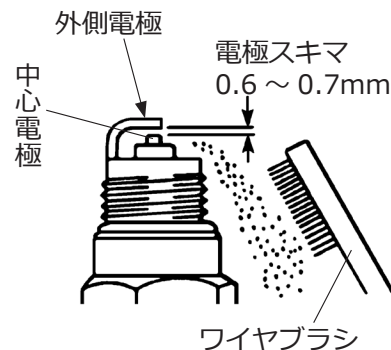
## (4) 点火プラグの清掃・調整

### 1) 点検の間隔

点火プラグの点検は、25 時間使用するごとに行ってください。

### 2) 清掃・調整

- ① 付属のコンビボックススパナを用意してください。
- ② コンビボックススパナを使用し、点火プラグを外してください。
- ③ 電極部にカーボンなどが堆積している場合はワイヤブラシなどで清掃してください。
- ④ 中心電極や外側電極が焼けて丸く減っている場合は、点火プラグを交換してください。
- ⑤ 点火プラグの電極スキマは、0.6mm～0.7mm (ハガキ 3 枚分程度) が正常です。広すぎたり狭すぎたりしている場合は調整してください。



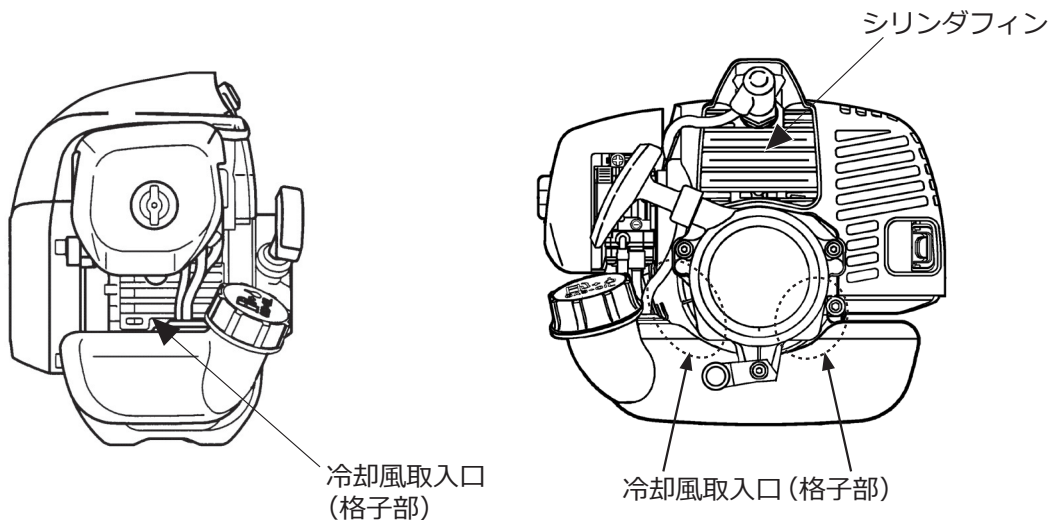
## (5) 冷却風通路の清掃

### ⚠ 注意



- 作業開始前に、冷却風通路にゴミが詰まっているか点検してください。冷却風通路にゴミが詰まっていると、エンジンの冷却不良が発生し、オーバーヒートに至るおそれがあります。

- ① 冷却風取入口 (格子部) 周辺のゴミを取り除いてください。
- ② シリンダフィンの中のゴミを針金などを用いて取り除いてください。



## (6) マフラの点検・整備

マフラがカーボンで汚れているときや排気口にカーボンが付着しているときに、エンジンの出力低下が起こります。

### お願い

- マフラ内部、シリンダ、ピストンのカーボン除去作業には、専門の技術および道具が必要です。ご購入の販売店に点検・整備を依頼してください。

## (7) 燃料フィルタ・タンクの清掃

# 危険



- 混合燃料は引火性の高い燃料です。取り扱いは必ず火気厳禁を守ってください。守らないと火災に至ります。

# 注意



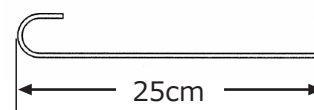
- 燃料タンクと燃料フィルタの清掃には混合燃料を使用してください。水洗いなどをするとエンジンの故障に至るおそれがあります。

### 1) 清掃の間隔

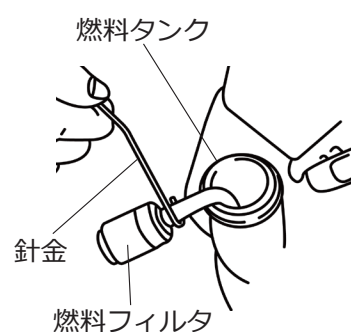
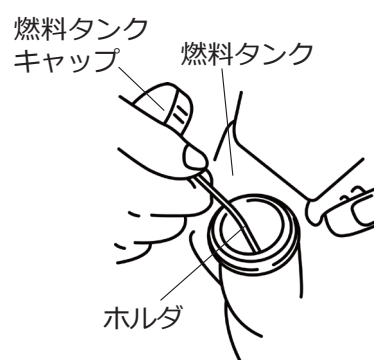
燃料フィルタが詰まると、始動不良や加速不足の原因になります。25時間ごとに取り出して清掃してください。

### 2) 清掃

- ① 右図のように曲げた針金を用意してください。
- ② 燃料タンクキャップを外した後、燃料タンクキャップを引っ張り、ホルダを燃料タンクから取り出してください。
- ③ 用意した針金を使用して燃料フィルタを取り出し、ゴミを取り除き混合燃料で洗浄してください。汚れがひどいときは、燃料フィルタを交換してください。
- ④ 燃料タンク内にゴミがあると燃料フィルタが詰まりやすくなります。ゴミを取り除き、燃料タンク内も混合燃料で洗浄してください。
- ⑤ 燃料フィルタの清掃、交換の後は、燃料フィルタが燃料タンク内で自由に動くように、燃料タンク内に押し込んでください。その後ホルダも、燃料タンク内に押し込んでください。
- ⑥ 燃料タンクキャップを取り付け、しっかりと締め付けてください。



※市販の針金を図のように曲げてご使用ください。



### お願い

- 洗浄して残った混合燃料は、18ページの「(4) ガソリンおよび混合燃料の廃棄」に従って処分してください。

## (8) 減速機の点検

### ⚠ 注意



- (8) 減速機の点検・整備は、減速機が冷えてから行ってください。冷える前に行うと、やけどに至るおそれがあります。



- 交換用のオイルは、必ず当社純正ギヤオイルを使用してください。他のギヤオイルでは、減速機の異常加熱や破損のおそれがあります。

### お願い

- 初回のオイル交換は始動後(10～12時間)で必ず交換してください。
- 連続使用の場合のオイル交換は(50～55時間)ごと、あるいは1シーズンごとで交換してください。

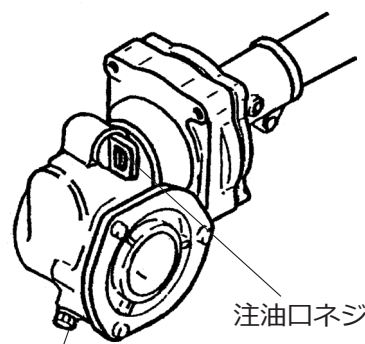
車輪の軸部に減速機(遊星型減速機+ウォーム型減速機)があります。オイルは必ず当社純正ギヤオイル(80cc) **44 ページの「14. オプション(純正品一覧)」**を使用してください。

- ① 付属のコンビボックススパナと古いオイルを受けるトレイを用意してください。
- ② 注油口ネジを指で、排出口ボルトをコンビボックススパナで開け、古いオイルを排出してトレイで受けてください。
- ③ 排出口ボルトを閉め、新しいオイルを注入し、注油口を閉じてください。その際、注油口ネジおよび排出口ボルトは、Oリングのはみ出しや破損がないよう注意して確実に締め込んでください。
- ④ 各部にオイルもれがないか必ず確認してください。



ギヤオイル 230cc  
(部品番号 228237)

本製品に必要なのは  
80 ccです。



排出口ボルト

注油口ネジ

### お知らせ

- オイル交換時に減速機の内部を灯油で洗浄すれば耐久性が一段と増します。
- オイルを適量以上に注油すると過熱の原因となり、オイルシールを損傷します。

## (9) 溝切板

ゆがみ、摩耗、破損などが点検してください。  
異常があれば溝切板を交換してください。

## (10) ボルト・ネジの点検

各部のボルト・ネジのゆるみを点検し、ゆるんでいる場合は増し締めしてください。また、摩耗していたら新品と交換してください。

## 9. 混合燃料の作成

混合燃料についての専門知識や技能がある方で、ご自分で混合燃料を作る場合は下記の手順で実施してください。

### 危険



- ガソリンおよび混合燃料は引火性の高い燃料です。取り扱いおよび保管の際は必ず火気厳禁を守ってください。  
守らないと火災に至ります。
- ガソリンおよび混合燃料を保管する場合、金属製の容器に入れ可燃性の気体が漏れ出さないよう密栓をし、火気や火花を発生する機械器具などから離れた、直射日光の当たらない、通風、換気の良い場所で静電気が帯電しないように容器を直接地面に触れる（アース）ようにして保管してください。  
守らないと火災に至ります。

### 注意



- 購入から1カ月以上たったガソリン（お客様が作成した混合燃料を含む）は、本製品に使用しないでください。  
変質したガソリンを使用すると、エンジンの故障に至るおそれがあります。

#### お知らせ

##### ■ ガソリンの購入について

令和2年2月1日から危険物の規制に関する規則の一部を改正する省令（令和元年総務省令第67号）により、ガソリンを販売するため容器に詰め替えるときは、顧客の本人確認、使用目的の確認及び販売記録の作成を行うこととされました。そのため、ガソリンを購入する際は本人確認書類の提示の要求や使用目的が聞き取りされ販売業者に販売記録が作成されます。ガソリンスタンドで購入の際は本人確認書類・消防法令に適合した金属製のガソリン携行缶を用意し、ガソリン購入時に販売記録の作成に協力してください。

#### 1) 混合比率

無鉛ガソリンと市販の2サイクルエンジンオイル（※）、市販の燃料混合器（内部がきれいで水分のない状態であるもの）を用意してください。ガソリンとエンジンオイルの混合比率は下表に示す通りです。

ガソリン	オイル（※）
<b>50</b>	<b>1</b>
ガソリン1 Lの場合はオイル 20 mL	
ガソリン5 Lの場合はオイル100 mL	

- 2サイクルエンジンオイル（※）は、JASO 性能分類のFD またはFC 級をお使いください。
- 上記指定以外のオイルや混合比は、エンジンの破損や不調に至ることがあります。

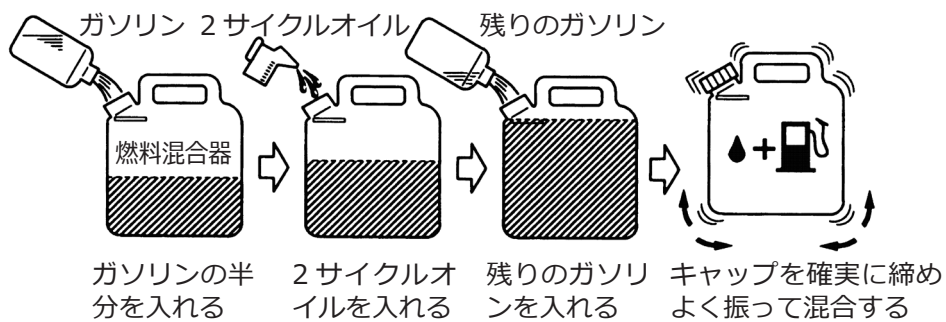


## 2) 混合の仕方

- ① 燃料混合器に混合するガソリンの半分を入れてください。
- ② 規定量のオイルを入れ、残り半分のガソリンを入れてください。
- ③ 燃料混合器のキャップを確実に締めた後、よく振ってガソリンとオイルを混合してください。

### お願い

- 混合燃料は、必ず燃料混合器で作ってください。



### お願い

- 残った混合燃料は、**18 ページの「(4) ガソリンおよび混合燃料の廃棄」**に従って処分してください。

## 10. 長期保管

- 本製品を長期間（1 か月以上）保管する場合は、下記の手順で整備をしてください。

本製品の汚れを落とし、**30 ページの「8. 点検・整備」**に記載の下記の(1)～(10)を行ってから保管してください。なお、点検・整備ができない場合は、ご購入の販売店または弊社サポートセンターにご相談ください。また、損傷箇所がある場合は必ず修理してから保管してください。

### 9. 点検・整備

- (1) スロットルワイヤの組み付け
- (2) キャブレタ
- (3) エアクリーナの清掃
- (4) 点火プラグの清掃・調整
- (5) 冷却風通路の清掃
- (6) マフラの点検・整備
- (7) 燃料フィルタ・タンクの清掃
- (8) 減速機の点検
- (9) 溝切板
- (10) ボルト・ネジの点検

## 注意



- **長期間使用しない場合は、必ず混合燃料を抜き取って保管してください。**  
混合燃料が燃料タンク内やキャブレタ内に残ったまま長期保管すると、混合燃料が変質してエンジンが始動できなくなります。**29 ページの「(3) 作業後」**を参照し燃料タンクを空にしてください。
- **高圧洗浄機を使う際は、エンジン、スイッチ、減速機の車輪取り付け部周辺などは避けてください。**  
水の浸入による破損や内部のサビなどの原因なるおそれがあります。

### お願い

- 本製品の各部は必ず水洗いで泥土を落とし、十分乾燥させた上で油拭きをして保管してください。
- 回転・可動部分が軽く動くように点検整備してください。
- 各部を十分に清掃し、保管はチリやホコリが付着しないように注意して火気のない、高温や多湿にならないところに格納してください。

# 11. 故障と対策

## (1) まったく始動しないとき

故障原因	対策
燃料タンクに混合燃料が入っていない。	混合燃料を給油する。
マフラの排気口にカーボンが詰まっている。	ご購入の販売店に修理を依頼する。
不良燃料や水などが混入した燃料を使用している。	燃料タンク内およびキャブレタ内の燃料を抜き取り、燃料タンクや燃料フィルタ、燃料ホース内を清掃し、正しい混合燃料に入れかえる。 <b>17 ページの「(3) 給油」</b> および <b>29 ページの「(3) 作業後」</b> の項目を参照してください。
燃料フィルタにゴミが詰まっている。	燃料フィルタを清掃または交換する。 <b>36 ページの「(7) 燃料フィルタ・タンクの清掃」</b> の項目を参照してください。
燃料フィルタが燃料の油面より上にある。	燃料フィルタを燃料タンクの底に押し込む。 <b>36 ページの「(7) 燃料フィルタ・タンクの清掃」</b> の項目を参照してください。
アイドリングの回転速度が低すぎる。	アイドリング調整をする。 <b>33 ページの「(2) キャブレタ調整(アイドリング調整)」</b> の項目を参照してください。
点火プラグにゴミが付着している。	点火プラグを清掃する。 <b>35 ページの「(4) 点火プラグの清掃・調整」</b> の項目を参照してください。
点火プラグの電極が消耗している。	点火プラグを交換する。 <b>35 ページの「(4) 点火プラグの清掃・調整」</b> の項目を参照してください。
燃料を吸い過ぎている。	点火プラグを外し、よく拭き取り、乾燥させる。

## (2) 始動するが回転が上がらなかつたり、出力が十分でないとき

故障原因	対策
チョークが全開になっていない。	チョークを全開にする。
スロットルレバーが十分に開いていない。	スロットルレバーを十分に開く。
スロットルワイヤの遊びが大きすぎる。	ワイヤアジャスタ(スクリュ)の調整をする。 <b>33 ページの「(2) キャブレタ調整(アイドリング調整)」</b> の項目を参照してください。
燃料混合比を誤っている。	正しい混合燃料比の混合燃料に入れかえる。 <b>38 ページの「9. 混合燃料の作成」</b> の項目を参照してください。
燃料フィルタにゴミが詰まっている。	燃料フィルタを清掃または交換する。 <b>36 ページの「(7) 燃料フィルタ・タンクの清掃」</b> の項目を参照してください。

## (2) 始動するが回転が上がらなかつたり、出力が十分でないとき

故障原因	対策
エアクリーナのエレメントが詰まっている。	エレメントを清掃または交換する。 <b>34 ページの「(3) エアクリーナの清掃」</b> の項目を参照してください。
マフラの排気口にカーボンが詰まっている。	ご購入の販売店に修理を依頼する。
冷却風通路にゴミが詰まっている。	冷却風通路のゴミを取り除く。 <b>35 ページの「(5) 冷却風通路の清掃」</b> の項目を参照してください。

## (4) 運転中、回転が次第に下がる時

故障原因	対策
不良燃料を使用している。	燃料タンク内およびキャブレタ内の燃料を正しい混合燃料に入れかえる。 <b>38 ページの「9. 混合燃料の作成」</b> の項目を参照してください。
エアクリーナのエレメントが詰まっている。	エレメントを清掃する。 <b>34 ページの「(3) エアクリーナの清掃」</b> の項目を参照してください。

### お願い

- 上記についてお調べの上で、故障が直らないときは、ご購入の販売店または弊社サポートセンターにご相談ください。

## 12. 転売・譲渡・廃棄

### 転売・譲渡

- 本製品を転売・譲渡する場合は、取扱説明書も同時に譲渡してください。取扱方法についてよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。
- 転売先や譲受者に、製品の状況を説明してください。部品が不足している場合や修理が必要な場合は、修理をするように指導してください。
- 保証書も同時に譲渡してください(保証期間内の場合)。

### 廃棄

- お住まいの地域の自治体の指導に従ってください。

### お願い

- 燃料やオイルを廃棄する場合は、お住いの自治体の廃棄物担当部署または産業廃棄物処理業者に相談し、所定の規則に従って廃棄してください。

## 13. 主要諸元

型 式 名	SNE266	
寸 法	全 長(mm)	1220
	全 幅(mm)	480
	全 高(mm)	820/870
質 量(kg)	13.1	
減 速 比	1:240	
車 輪 外 径(mm)	600	
溝 幅(mm)	160 ~ 210	
溝 深 さ(mm)	100 ~ 130	
車 輪 回 転 速 度(min <sup>-1</sup> )	25 ~ 35	
エ ン ジ ン	名 称	CE260
	形 式	空冷 2 サイクル正立ピストンバルブ式
	総 排 気 量(cm <sup>3</sup> )	26
	使 用 燃 料	潤滑油混合燃料
	使 用 潤 滑 油	市販 2 サイクルエンジンオイル
	混 合 比	50〔ガソリン〕 : 1〔FD, FC 級の市販 2 サイクルエンジンオイル〕
	燃 料 タ ン ク 容 量(L)	0.6
	気 化 器	ロータリーバルブ式ダイヤフラム
	点 火 方 式	無接点マグネト点火
	点 火 プ ラ グ	NGK BPM8Y
	始 動 方 式	リコイル式(ダンパースタート)
停 止 方 式	一次線短絡式(押しボタン式)	

- 改良のため予告なく仕様を変更することがあります。
- 質量はギヤオイルを除いた質量です。

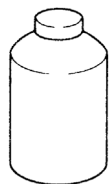
### 【交換部品リスト】

品 名	部品番号	JAN コード	備 考
クリーナエレメント	418937	4941735915442	
エアクリーナカバー	268058	—	
燃料フィルタ	247107	—	
タンクキャップ	472863	4941735922501	(大)
点火プラグ	285982	—	NGK BPM8Y

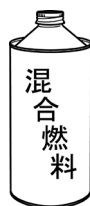
## 14. オプション(純正品一覧)

( )内は部品番号です

オプション  
(別売)



ギヤオイル 230cc  
(228237)



5年保存タイプ  
1L (464087)  
2L (464088)  
4L (464089)

純正混合燃料

## サービスと保証について

### ■ 保証書について

保証書はお客様が保証期間中に保証修理を受けるときに、ご提示いただくものです。所定事項が漏れなく記入されているか確認し、お読みになられた後は大切に保管してください。

本製品を改造した場合や取扱説明書に記載の正しい使用目的と異なる場合や、使用上の誤りは、メーカーの保証対象外になりますので、ご注意ください。

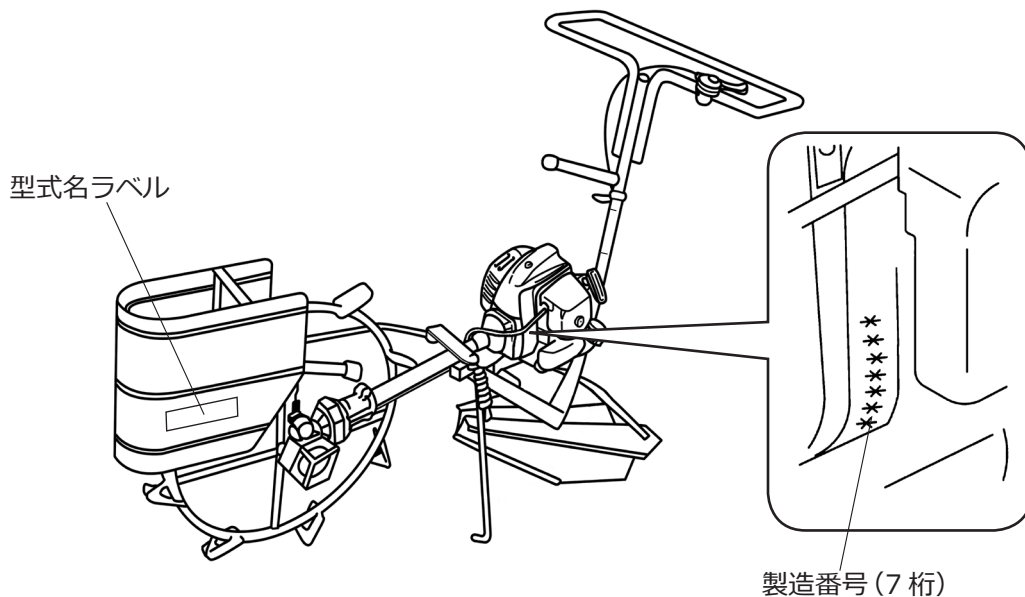
### ■ アフターサービスについて

○ 本製品を安全にご使用いただくには、正しい操作と定期的な整備が不可欠です。年に一度は、ご購入の販売店に点検整備を依頼してください。このときの整備は有料となります。

○ 始業点検時や使用中に不具合が発見された場合は、直ちに適切な整備をしてください。または、ご購入の販売店にご連絡ください。

○ 連絡していただく内容

- 型式名 \_\_\_\_\_
- 製造番号 \_\_\_\_\_
- 故障内容 なにが・どうしたら・どんな状態で・どうなったかを詳しくお話しください。



### ■ 補修部品の供給年限について

本製品の補修用部品の供給年限は、製品の製造打ち切り後9年です。

ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合があります。補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。



しっかり点検！安心・長持ち！  
末永くお使いいただくためにも  
定期的な点検・整備をお勧めします。

詳しくはお求めいただいた販売店までお気軽にご相談ください。



本製品に関するお問い合わせなどは、ご購入の販売店にご相談ください。または、下記の全国共通の無料通話あるいは丸山製作所ホームページでもお受けいたします。

丸山サポートセンター

無料通話 0120 - 898 - 114

丸山サポートセンターホームページ

<http://www.maruyama.co.jp/support/>



受付時間 9:00 ~ 17:00(土、日、祝日を除く)

本製品に関してお問合せいただく際は、正確にご対応させていただくため、あらかじめ、下記の事項をご準備ください。

- ① 型式名、製造番号
- ② ご購入年月日
- ③ 販売店名

修理依頼、補修用部品・オプションのご注文は、  
ご購入の販売店または取扱店へ依頼してください。



**株式会社丸山製作所**

本社 / 東京都千代田区内神田 3-4-15 〒 101-0047

この取扱説明書の部品番号は 237228

P/N. 237228-05 22.6 IN